

令和4年6月遠野市議会定例会会議録（第2号）

令和4年6月13日（月曜日）

説明のため出席した者

議事日程 第2号
令和4年6月13日（月曜日）午前10時開議
第1 一般質問

市 長	多 田 一 彦 君
副 市 長	鈴 木 惣 喜 君
総務企画部長	鈴 木 英 呂 君
総務企画部経営管理担当部長 兼情報推進課長 兼新型コロナウイルス対策室長	佐々木 啓 君
健康福祉部長兼健康福祉の里所長 兼地域包括支援センター所長	菊 池 寿 君
健康福祉部保健医療担当部長 兼新型コロナウイルスワクチン接種対策室長	佐々木 一 富 君
産 業 部 長	阿 部 順 郎 君
環境整備部長	奥 寺 国 博 君
会計管理者 兼会計課長	新 田 順 子 君
消防本部消防長	千 田 一 志 君
市民センター所長	海 老 寿 子 君
教 育 長	佐々木 一 人 君
教育委員会事務局教育部長	伊 藤 貴 行 君
選挙管理委員会委員長	菅 沼 隆 子 君
代表監査委員	多 田 博 子 君
農業委員会会長	千 葉 勝 義 君

本日の会議に付した事件

- 1 日程第1 一般質問（小松正真、佐々木敦緒、佐々木大三郎、小林立栄、菊池巳喜男議員）

出席議員（17名）

- | | |
|------|-------------|
| 1 番 | 小 松 正 真 君 |
| 2 番 | 佐々木 恵美子 君 |
| 4 番 | 佐々木 敦 緒 君 |
| 5 番 | 佐々木 僚 平 君 |
| 6 番 | 小 林 立 栄 君 |
| 7 番 | 菊 池 美 也 君 |
| 8 番 | 萩 野 幸 弘 君 |
| 9 番 | 瀧 本 孝 一 君 |
| 10 番 | 多 田 勉 君 |
| 11 番 | 菊 池 由 紀 夫 君 |
| 12 番 | 菊 池 巳 喜 男 君 |
| 13 番 | 照 井 文 雄 君 |
| 14 番 | 荒 川 栄 悦 君 |
| 15 番 | 安 部 重 幸 君 |
| 16 番 | 新 田 勝 見 君 |
| 17 番 | 佐々木 大三郎 君 |
| 18 番 | 浅 沼 幸 雄 君 |

欠席議員（1名）

- 3 番 菊 池 浩 士 君

事務局職員出席者

事務局 長	朝 倉 宏 孝 君
次 長	千 葉 芳 治 君
主 査	多 田 倫 久 君
主 査	松 本 康 子 君

午前10時00分 開議

○議長（浅沼幸雄君） おはようございます。
これより本日の会議を開きます。

本日の欠席の届出議員は、3番菊池浩士君であります。

日程第1 一般質問

○議長（浅沼幸雄君） これより本日の議事日程に入ります。

日程第1、一般質問を行います。順次質問を許します。1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） おはようございます。小松正真でございます。令和4年6月遠野市議会定例会、1番最初の一般質問として登場いたしました。

一般質問を始める前に、実は昨日、新型コロナウイルスのワクチンを3回目接種いたしました。今、この場で、ちょっと若干調子悪いなど

いうふうに思っているんですけども、緊張していて調子悪いのか、ワクチンのせいで調子が悪いのか、ちょっと分からないですが、ちょっと倒れたりとかしたら、どなたか、助け起こしていただければなというふうに思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

私の一般質問は、大項目1点、本年4月から就任された佐々木一人教育長に対して、新教育長の方針についてということで、一般質問を行います。

令和4年3月定例会において、令和4年度の教育方針が示されております。しかしながら、その教育方針については、現教育長がお出しになった方針ではなく、前教育長がお出しになった方針であります。もちろん先に出された教育方針は新教育長の下でも受け継がれ、市長部局とも連携を取っていると思いますので、方針が変わるものではないというふうに理解しておりますが、教育長が変わり、遠野の教育にも変化を起こしていくおつもりだと思いますので、本日遠野の教育について、様々お伺いをしてまいります。

日本の教育には教育基本法という法律があり定義されています。

第1条教育と目的には、教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならないとあります。

そして、本日お伺いしていく生涯学習は、同じく第3条に生涯学習の理念として、国民一人ひとりが、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことができる社会の実現が図られなければならないとあります。

難しく書いてありますけれども、日本国の国民は、みんな学習する自由があって、学習したら、その成果を自由に発揮することができますよということだと認識をしています。

まず、最初に、教育長が就任されて、大体2カ月が経過をいたしました。今回教育長も初めての議会だと思しますので、市民に向けて、自己紹介と御自身の信条、こういう思いを持って教育行政に取り組んでいきたいというお話があれば、お伺いをいたします。

先日、本定例会初日に、教育長の自己紹介がございました。その際にも、小中学校の現場の声を大事にされること、地域や保護者の皆様との連携を図ることなどがお話をされておりました。この一般質問の通告は、その自己紹介の前に通告をしていたということでございますので、御理解をいただいて、先日の教育長の自己紹介を御覧になっていない市民の皆様もいらっしゃると思いますので、重複する話もあるかと思いますが、教育長の方針についてお伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 佐々木教育長。

〔教育長佐々木一人君登壇〕

○教育長（佐々木一人君） それでは、教育長の方針についてお話をいたします。

令和4年4月1日より教育長を拝命した佐々木一人です。よろしく願いいたします。

私は37年間の教員生活の中で、9年間は奥州市や花巻市で勤務をいたしました。残りの28年間は遠野、宮守で勤務をいたしました。私の強みは、現場の経験を生かすことと遠野の子どもたちや地域や保護者のことを知っているということだと認識しております。このことを最大限に生かし、本市の教育行政を推進していきたいと思っております。

遠野市総合計画・後期基本計画、大綱4、ふるさとの文化を育むまちづくり及び遠野市教育振興基本計画に沿って策定され、本年3月議会でお示した遠野市教育行政推進基本方針を引き継いでまいります。

遠野の未来を担う子どもたちのため、地域や保護者の願いを知り、学校・家庭・地域が連携して取り組み、本市の教育振興基本計画に掲げる基本理念「ふるさとの文化を生かし、『夢』と『誇り』を育む学びのまちづくり」の下、本

市の学校教育目標である「知・徳・体のバランスの取れた人間形成」の実現のため、子どもたちの豊かな成長を支えてまいります。

令和4年度は、「遠野だからこそできる教育、やるべき教育」を合い言葉として、令和の日本型学校教育の推進とコミュニティ・スクールの推進を重点としていく所存でございます。

市内の小中学校は児童生徒数が減少しており、今年度は市内11校ある小学校のうち、6校に複式学級があります。きめ細かな指導をしていく上で、複式指導の指導法や授業力向上は欠かすことができません。異学年での学びは自分以外のほかの人への思いやりや畏敬の念を醸成することにつながり、心豊かな児童生徒を育成することにもつながります。

また、複式指導により、自ら学習に取り組む姿勢や仲間と共に学習する共同的な学びにもつながります。より児童生徒の実態に則して学習していく上で、校内における指導体制を構築していくことが個別最適な学びにもつながります。複式学級による少人数の教育が「遠野だからこそできる教育、やるべき教育」であると考えています。

このような基本計画を推進していく上で、人づくりが重要であると考えます。心豊かでたくましい児童生徒を育てることがふるさとを愛する子ども、家庭や地域を大切にする子どもに育つと考えます。ぜひ、遠野から世界で活躍するような人材が育つ教育を推進していきたいと思えます。

私は、本市の教育行政を推進していく上で、大切にしていきたいことがあります。

1つ目は、小中学校の現場の声を聞くことです。働きやすい教育環境をつくっていくことは、ゆとりのある学校づくりにもつながります。児童生徒と向き合う時間をつくり、潤いのある楽しい学校生活を送ることができるようにしたいと考えています。できるだけ学校現場に足を運びたいと思います。子どもたちの声や教職員の声を聞き、教育行政にも反映させていきたいと思えます。

2つ目は、地域や保護者との連携を図ることです。心豊かでたくましい児童生徒を育成するには、地域や保護者の願いを知り、連携協力していくことは不可欠です。児童生徒を中核に据え、学校、行政、地域と保護者の4者がしっかりと連携し合うことが大切であると考えます。地域や保護者があつての学校、教育委員会です。教育長として学校や地域の応援・支援ができるようにたくさんの声を聞き、少しでも明日の遠野を担う子どもたちを育成するために精進できればと思います。

現在の遠野市は、未来の遠野に住む子どもたちから授かったものです。しっかりと守り育てていくことが現在の私たちの使命であると思っています。強い使命感と責任感をもって教育行政を牽引していく覚悟であります。

よろしく申し上げます。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） 全体の方針について、力強い方針を出していただいているというふうに思います。ぜひ、教育長おっしゃる現場の声、これに耳を傾けて、しっかりと進めていただければなというふうに思うんですが、次の質問に入ります。

次に、生涯学習についてお伺いをいたします。

遠野市でも昔から生涯学習に取り組んでまいりました。先日の教育長の自己紹介の中でも、生涯学習しっかりやっていくんだというお話があったかと思えます。学習と聞くと学校で座ってするものというイメージが、イメージを持たれる方も多くいらっしゃるんじゃないかなというふうに思うんですけども、そもそも生涯学習というのはどのようなものなんでしょうか。お伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 佐々木教育長。

〔教育長佐々木一人君登壇〕

○教育長（佐々木一人君） 生涯学習についてお答えいたします。

生涯学習は、個人の生活の向上、職業上の能力の向上等を目指し、自発的な意思に基づいて

行うことを基本として、必要に応じ、自分に適した手段及び方法を自ら選びながら生涯を通じて行うものとされております。そして学校教育や社会教育だけでなく、親子の触れ合いや、スポーツ活動、文化活動、趣味、レクリエーション活動、ボランティア活動など、家庭、教育・保育施設、職場、地域社会で行われる全ての学習を生涯学習と捉えることができ、私たち一人ひとりの生きていく姿そのものが深く関わっているものと認識しております。

本市においては、生涯学習について、第2期遠野市教育振興基本計画の中で、「いつでも、どこでも、だれもが学習できる環境と優れた芸術に触れる機会の充実に努める」とあります。

「いつでも、どこでも、だれもが学習できる環境づくり」については、市民センターや地区センターなどの社会教育施設を生涯学習の場として広く市民に利用いただくとともに、社会教育に関する団体や趣味のサークルの情報、知識を有する講師や出前講座の情報を発信し、市民の学びを支援しております。

「優れた芸術に触れる機会の充実に努める」については、芸術文化活動の推進を図るため、「遠野物語ファンタジー」をはじめとした市民協働による芸術の振興や地域に根差した団体の支援のほか、遠野市民センターバレースタジオや遠野少年少女合唱隊による幼児期から芸術文化に親しむ場をつくり出すとともに、国や県と連携して市内小中学生を対象に行う青少年劇場や岩手芸術家派遣事業などに取り組み、子どもたちに優れた芸術に直接触れる機会を提供しております。

人は学習することで新しい可能性を見つけ、新しい自分を発見することができるとともに、生きる力を育むことができると考えております。多くの市民が生涯にわたって学び続けるとともに、学ぶことの楽しさを感じることができるよう生涯学習活動の推進に努めてまいります。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） 遠野市内の事例も様々御紹介をいただきました。

生涯学習は大きく3つ、学校教育、家庭教育、社会教育、この3つで成り立っているというふうに理解をしています。それぞれ字のごとくで、学校教育は学校で行われる教育、家庭教育は家庭で行われる教育、社会教育は学校・家庭以外の社会の中で行われる教育のことというふうに理解しております。

これからは、学校教育の方針、家庭教育の方針、社会教育の方針を順にお伺いをしてまいります。

先ほど、1番最初の御答弁でも詳しくお話をいただきましたけれども、まずは学校教育の方針についてお伺いをしてまいります。

先ほど申し上げましたとおり、学校教育とは、全ての国民に対して、その一生を通ずる人間形成の基礎として必要なものを共通に修得させるとともに、個人の特性の分化に応じて豊かな個性と社会性の発達を助長する、最も組織的・計画的な教育制度であり、国民教育として普遍的な性格を持ち、他の領域では期待できない教育条件と専門的な指導能力を必要とする教育を担当すると文科省の資料にありました。

難しいお話をしましたけれども、簡単に言うと先ほどお話ししたとおり学校で行われる教育のこと、特に義務教育に関することということでお話しをしてまいります。

令和4年度からはコミュニティ・スクール事業を開始され、市内の小中学校の体制も変わったことと思います。教育長の学校教育に対する方針をお伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 佐々木教育長。

〔教育長佐々木一人君登壇〕

○教育長（佐々木一人君） それでは、学校教育の方針についてお答えします。大きく2点についてお話をいたします。

令和4年度は、令和の日本型学校教育の推進と学校・家庭・地域が協働して取り組む学校運営協議会制度による学校運営の2つを基軸として遠野の教育を推進してまいります。

1つ目の令和の日本型学校教育の推進については、GIGAスクール構想により導入した学

習用端末等のICT環境の効果的な活用により、授業における協働的な学びをさらに推進するとともに、諸調査の分析結果に基づいたきめ細かな個別指導や家庭学習指導に力を入れ、個別最適な学びの充実に向け、取り組んでまいります。

2つ目の学校運営協議会制度による学校運営については、学校と地域が連携した取組の中で、児童生徒の学力向上に係る活動、地域の方々の交流を通じた活動、児童生徒の健康に係る活動などが計画されております。

本市の強みでもある地域の教育力をいただきながら、児童生徒の健全育成を主眼に置き、学校・行政・地域・保護者の4者が連携した教育活動を展開していきたいと考えております。

また、これらの取組と並行して、教職員が児童生徒と向き合う時間を確保し、創意工夫ある教育活動に取り組んでいけるよう教職員の働き方改革にも積極的に取り組むなど、喫緊の教育課題に対応しながら、学校教育の充実を図ってまいります。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） 次に、家庭教育についてお伺いをいたします。

家庭での親権者、または、これに代わる者による子どもに対する教育を家庭教育は意味をします。学校教育にも、社会教育にも、それぞれ学校教育法、そして、社会教育法という法律がありますが、家庭教育に法律はありません。

文科省が発行している資料の冒頭に、このような記述がありました。

「核家族化による親が身近な人から子育てを学ぶ機会の減少や、都市化による地域とのつながりの変化など、家庭教育を支える環境が大きく変化しています」とあります。

日本全体が大きく変化している中、現在は、本来、大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども、いわゆるヤングケアラーという事例もあるようでございます。遠野市も例外ではなく、人口減少と少子高齢化が進んでいる中で、家庭教育の在り

方は変化していることと思います。

そんな状況の中で、教育長が考える家庭教育の方針について、今後、家庭教育に対して、どのような方針をお持ちなのか、お伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 佐々木教育長。

〔教育長佐々木一人君登壇〕

○教育長（佐々木一人君） それでは、家庭教育の方針についてお答えいたします。

家庭教育は保護者等が子どもに対して行う教育のことであり、全ての教育の出発点とされ、子どもが生きる力の資質や能力を身につけていく基盤とされております。このことから、適切な家庭教育を受けることは全ての子どもにとって重要であると考えており、本市においては、これまでも教育基本法に基づき、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供、その他家庭教育を支援するための必要な施策を講じているところであります。

保護者に対する学習の機会及び情報の提供につきましては、家庭教育ゼミナールを開催し、全国的な課題となっている情報メディアとの上手な付き合い方など、家庭教育の課題に即した学習の機会を充実させることにより、家庭及び地域の教育力の向上に努めているところであります。また、家庭の教育力を向上していくためには、地域や学校との連携、協働による取り組みも重要であると考えています。遠野市PTA連合会や、今年度設置した各学校の学校運営協議会等と連携し、地域で子どもを育てるという観点の下、取組を進めてまいります。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） 家庭教育についてお伺いをいたしました。

家庭は社会で言う最小の単位の社会かなというふうに認識をしております。地域で子どもを育てる。ぜひ、その方向性に向かって、しっかりと進めていただければなというふうに思うところです。

次に、もうちょっと大きな単位の社会につい

て、社会教育についてお伺いをいたします。

我が国には社会教育法という法律が存在をいたします。その社会教育法の中に、第2条社会教育の定義、この法律で、社会教育とは、「学校教育法に基づき、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動のことを言う」というふうにあります。簡単に言うと、学校教育として行われるものではなくて、学校を卒業した人たちに行われる教育活動のことを指すというふうに理解をしております。

遠野市でも古くから社会教育活動が行われてきました。私の中での社会教育活動は、地域をよくする活動。この中で仲間をつくり、問題にチャレンジしていく。時には成功し、時には失敗する。チャレンジを行うことを通じて、個人の新しい一面を開拓し成長していくこと。この過程を社会教育というふうに思っています。また、その過程の中で、各世代に、遠野を、そして日本をよくするという目的意識を持った人材がリーダーとして発掘され、その各世代のリーダーが次の遠野市のリーダーになっていく。

私も大学を卒業して遠野に帰ってきてから、青年団体協議会そして青年会議所、そのような団体で、この社会教育活動に一所懸命やってきました。遠野市では区長制度が廃止され、今まさに地域づくりの新しい形が始まったところではありますが、その各地域が抱える大きな問題の一つが、次のリーダーが見つからないということではないでしょうか。この社会教育という言葉は戦前から存在し、人によって捉え方も学習の在り方も変わるとは思いますが、今後の遠野市のリーダーを育てるために1番必要なことが、この社会教育活動を行い、各年代のリーダーをピックアップし、育てることだというふうに思っています。遠野市をもっといい町にしたいという目的意識を持つ人材の育成は、1年や2年でできるものではありません。しかし、遠野を引っ張るリーダーの育成は待ったなしの状況であると認識しています。

その状況の中で質問でございます。教育長は、

この社会教育に対してどのような方針をお考えなのか、お伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 佐々木教育長。

〔教育長佐々木一人君登壇〕

○教育長（佐々木一人君） 社会教育の方針についてお答えいたします。

社会教育は、社会教育法において、議員のおっしゃるとおり、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動とされております。本市の社会教育については、これまで市民センターや地区センターをはじめとした社会教育施設において、自らの興味関心や地域の課題解決につながる知識を学ぶ人づくり、市民が集い、総合学習による対話や議論、助け合い等により醸成されるつながりづくり、その成果を地域の活動に生かす地域づくりの3つの視点で取り組んでまいりました。一方、人口減少や高齢化への対応、地域のリーダーとなる人材の育成など、地域の課題解決に向けたさらなる取組や、学校教育と社会教育の一層の連携が求められております。

今後におきましては、これまでの取組を継続しながら、より多くの住民の主体的な参画を得ること、若手からベテランまでのリーダーの育成に努めることを重点として、社会教育の充実に向け取組を進めてまいります。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） 遠野市のリーダー、これは先ほど言ったとおり、一朝一夕で育成できるものではありません。広い視野で、この遠野市を見れるような人材をぜひ育てていただければなというふうに思うところです。

そのリーダーを育成するにも、その社会教育団体等への支援、これが問題になってくるというふうに理解をしております。

遠野市には社会教育団体という登録制度があります。この社会教育団体は、団体登録をすると施設使用料の減免とかという措置が取られること、受けられることになっております。3月

定例会でも、この社会教育団体の増減についてお伺いをいたしました。この団体登録数の推移だけ調べても、遠野市の社会教育の状況がどのようになっているのか、測る物差しになると思います。

遠野市内には、この社会教育団体に登録している団体のほかにも社会教育を行っている団体が存在しております。各団体に対して様々な支援の形が考えられると思います。例えば、予算をつけてバックアップしてあげる。さっきの使用料の減免みたいにお金をかけなくても社会教育活動ができるようにしてあげる。例えば、教育長や市長から、みんな頑張ってるなって声かけてあげる。それだけでも支援の形になるんじゃないかなというふうに私は理解するんですけども、それらの支援について、どのような方向性があるのか、それは今後しっかりと出していっていただければなというふうに思うんですけども、本日1点だけお伺いをしたいと思っています。

現在の日本は、昔に比べて就業時間や雇用体系がばらばらなことが多くなっています。社会教育に関わる団体の人たちも例外ではなく、例えば、夜8時とか、夜9時からとかしか全員がそろわない。なんて問題を抱えている人たちも多くいらっしゃるようです。しかしながら、社会教育の拠点である遠野市民センター内にある勤労青少年ホームは夜9時半までしか使用できません。しかも、以前よりも団体が使える部屋も少なくなっているように見受けられます。これでは、遠野市内の社会教育は一向に進まないというふうに思います。また、ほかの遠野市内施設も、夜9時半までしか使えないというのが現状であります。これ可能かどうか、今後検討が必要だと思しますので、この場で結論を求める質問ではございますが、ぜひ、教育長には、社会教育を行う団体のために、使いやすい遠野市内の施設の在り方、これの検討を市長と一緒にやっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 佐々木教育長。

〔教育長佐々木一人君登壇〕

○教育長（佐々木一人君） 社会教育団体等に対する支援の在り方についてお答えいたします。

御存じのとおり、遠野市民センターは昭和46年に開館して、生涯学習及び社会教育の拠点として多くの市民や団体に利用していただいております。開館時間は遠野市民センター管理運営規則により午前9時から午後9時30分までと定められております。開館から50年が経過し市民の暮らしや価値観、団体の活動も大きく変わっていることは承知しているところであります。これからは、市民や団体が集い学ぶためにどのような施設が望まれているか。まずは市民や団体のニーズを把握した上で、市民がこれまでより集い学ぶ場として利用しやすい施設となるよう、今後、市長や関係機関等と検討をしてみたいです。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） 本日、ここまで、生涯学習の方針についてお伺いをしてまいりました。その生涯学習を統括する教育長のお部屋、教育長室は、現在、東館町の庁舎のほうにあります。現在、この施設は、保育協会さん、子育て支援課、そして、教育委員会が入っています。この東館の旧庁舎は子育てのための施設だというふうに理解をしております。旧庁舎がある、あのエリア一体も、中心市街地活性化計画、これで子育てエリアというふうに規定をされています。本日様々お伺いをしてまいりましたが、学校教育も生涯学習の一部であり、私は子育てと教育というものは別物であるというふうに認識をしています。また、生涯学習の拠点は市民センターであると条例にもありますので、教育の拠点は市民センターであるというふうに認識をしています。

最後の質問になりますが、教育長室がその教育の拠点にないということに私は違和感があるという事はありません。物理的に移動するのが可能かどうかというのは、この際、ちょっと無視して話をしますけれども、教育の拠点である市民セン

ターに教育長室を持っていくのはいかがでしょうか。お伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 佐々木教育長。

〔教育長佐々木一人君登壇〕

○教育長（佐々木一人君） 教育長室の設置場所についてお答えいたします。

本市の生涯学習の拠点は市民センターであること、東館庁舎は、遠野市中心市街地活性化計画で子育てゾーンとして位置づけとなっていることは認識しております。

平成24年4月に実施された行政組織再編により、子育て総合支援センター、教育委員会及び子育て関連団体等の連携及び取組の強化を図るため、市民センターから現在の東館庁舎に移転をいたしました。子育てと保育と学校教育部門が同じ施設になったことにより、子育てに関する事業、教育に関する情報が共有できるようになり、より連携が密になるなど効果も出てきております。

教育委員会及び教育長室の設置場所は、保護者等の相談にワンストップで対応できることや、虐待事案が発生した際、迅速な対応ができること、昨今のコロナ感染対策において、学校と児童館と連携体制により感染拡大防止に取り組んでいること等、子育て支援の中核となっていることから、現行のままが望ましいと捉えております。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） 先ほど言ったとおり、私は、教育の拠点、これ市民センターだと思います。いろんな効果が今出ているというお話でしたけれども、今後、ぜひ、検討していただいで、もし、そういうふうな方向性があるのであれば、検討していただければなというふうに思っていますので、よろしく申し上げます。

以上で、私の一般質問、これで終わりますけれども、最後に一言。

私は、学校での勉強は全然できませんでした。英語もできませんでしたし、作文も書けませんでした。そんな私でも市議会議員になって、一

般質問の原稿を、今日原稿大体5センチぐらいなんですけれども、そんな原稿を書くことができるようになりました。学校を卒業して、社会に出て、先輩たち、後輩たち、多くの仲間と共に、苦しいことも、楽しいことも、共有しながら、いろいろな失敗を経験しました。その失敗を反省し学習してきたからこそ、今は自分なりの文章も書けるようになり、人前で話することも昔よりはできるようになったというふうに思っています。まさに社会教育の中で育って、今の自分があるというふうに理解をしております。残念ながら、まだ、英語はしゃべれません。

自分たちが生まれ育った遠野。今住んでいる遠野をもっとよくしたい。そう思う人たちが地域は支えられ、その中で自分たちが成長をしていく。遠野をよくする活動の中で、例えば、今までパソコンを使えなかった人が使えるようになる。農作業できなかった人が農作業できるようになる。新しい知識を得れば、新しい職種への転換が見えてきます。社会教育活動は必ず自分の成長と経済につながります。遠野市内には、遠野をよくしたいと思って頑張っている団体が多くあります。市民の皆様には、それらの団体に、これまで以上の御支援をお願いするとともに、次のリーダーを育成するため、それらの社会教育を行う団体への積極的な入会の後押しをお願いして、私の一般質問を終わります。

○議長（浅沼幸雄君） 10分間休憩いたします。

午前10時44分 休憩

午前10時54分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次に進みます。4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 佐々木敦緒であります。第2次遠野市総合計画後期基本計画及びシカ対策の2点について、市長に一問一答方式により質問します。

最初に、第2次遠野市総合計画の進捗状況についてお尋ねします。

2021年から25年まで5カ年の5つの大綱からなる第2次遠野市総合計画後期基本計画と併せ第四次健全財政5カ年計画も策定され2年目となります。この計画に基づき今年度から地区センターは住民自治による小さな拠点としてスタートしました。そこで、後期基本計画の進捗状況、市長はどのように捉えておいでか、御見解をお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） おはようございます。

このところ、昨日は早池峰山の山開きでございました。里山フェスタ、植林もやってきました。様々なイベント、これがスタートしています。本当に外で、みんなで一緒に活動するというのはいいなと改めて実感しております。そんなわけで、遠野の2022年もようやくエンジンが温まってきてスタートしているなというような感じをしております。

今、議員から御質問のあった2021年からの遠野市の総合計画後期基本計画の進捗状況についてでございますが、2021年から、行政というのは進捗状況、着手率というものを常にチェックしておりますので、4年度の当初の予算までで98事業、着手率で85%着手しております。

私も、所信表明演述でお話したように、この計画を尊重しながら真摯に遠野市政を進めてまいりたいと思います。その中で皆様と議論を重ねて、その社会状況に合わせて変えるべきところは変え、工夫することはもっと工夫するというふうにしていきたいと思っております。

その第一弾として、井戸端会議も開催させていただきました。その中で370名、市民の皆様に参加いただいて218件の御意見等頂きました。非常に有意義だったと思っております。

その中で可能なものについては、もう既に着手しております。終わっているものもあります。また検討しなければいけないこと。これは、先送りにしないでしっかりと検討して、各地域に回答していくというようなことを進めております。

同時に、私が重要だと思うのは、やっぱり自主性に勝るものはない。やっぱりそれぞれの人みんな自分からやるんだという意識を持ってやるということが市政を進める上では重要であって、特に第一歩としては市役所の中の組織改革とともに意識改革、これを進めていくということが重要だと思っています。現在、その途中でございます。

私としては、手応えがあります。もともと遠野を思って一生懸命やろうという前向きな職員が多いことは分かっておりましたが、このベクトル、この力の使い道、方向、これをしっかりと共通理解して持っていくということが必要だと思いますので、現在はその途中であるかというふうに思います。

また、第三セクターの改革については、非常に重要なところですよ。特に、ふるさと公社、ふるさと商社は、この議会でも幾度となく議論されたところだと思います。その中で、当局余り口出さないでとか、そういう議論もあったかと思っております。しかし、私には、口を出すというよりは、しっかりと現場の経営分析をふるさと商社・公社だけではなくて、あらゆるところで、畜産公社もしていかなければ、その分析がなければ改善策も出てこないというふうに思っておりますので、その上で健全化に向けて経営を改革していきたいというふうに思います。

いずれにしても、遠野市が進化していくためには、行政、議会、市民が一体となってやっていかなければなりません。着実に新たなまちづくりに向けた一歩を踏み出していると感じております。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 次の質問にも若干触れていただきました。私が聞きたいこと、成果について次にお尋ねするところでございますが、多田市長は就任早々、馬産地遠野の復活を目指し、生産者や関係者との懇談を重ねるなど積極的に行動されておられる。

畜産振興公社の改善にも、先ほどお話しされ

ましたが、第三セクターの改善にも立ち向かわれ、そのトップ畜産公社、そのトップ理事長には、畜産の専門家、民間人を登用された。また山林所有者の所得向上を併せ持つクリーンエネルギーの事業にも支援の方針など目を見張る変化を感じるところであります。

次々と新規事業を打ち出す多田市政、スタートからはや7カ月、そこで第2次後期基本計画の展開によって遠野市はどう変わっていると認識されておいでか。指標を定め進行管理されていると思います。現時点で感じ取っている手応え、成果について御見解をお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 年度当初申し上げたように、今回の予算は遠野の未来開拓予算、イノベーションとチャレンジを始めますということだったと思います。ようやくそのスタートに立てるかなというところあります。

失敗を恐れずに市政課題に向かっていく、この姿勢が少しずつ理解できていると、要するに行政の中にも回ってきているなという気がします。

それと同時に、スタートなのでいきなりトップスピードということにはなりませんけれども、その理解をしていく上でスピードが上がってくださるというふうに私は期待しております。

また、先日も現役国会議員の方とディスカッションをするなど様々な方と、市の若い職員がディスカッションする機会をつくっております。さらにこれから、各国の大使なども来る予定もありますので、機会をつくっていききたいというふうに思っています。民間の感覚と行政の感覚は違うというのではなくて、私は市民も民間も行政も課題感を共通して持つことによって、自分たちがどの方向に行くかということがイメージできますので、ベクトルをしっかりと合わせていきたいというふうに考えています。

現在、これからベクトルを合わせていけそうだという手応えはあります。その中で重要なこと、これはイメージです。自分たちの仕事が、

どういうものを生み出す、どういうものを創り出すんだらうかというイメージが必要だと思います。イメージなしでの仕事というのは、なかなかいい進み方をしないと思いますので、そのイメージの共有というのを今盛んに私話をしています。

同時に、今の遠野に必要なのは、投資という、すぐ例えば建築物だとか、そういうふうにとこうとられがちなんですけれども、そうではなくて、民間事業の、もしくは個人であっても農業者の方、商業の方、多種いらっしゃいます。その方々の民間投資、これが重要だと思います。今こそそういうチャレンジをしていきたいというふうに思います。

その点、今回も補正予算のほうでも後ほど説明させていただくこととなりますけれども、職員はその辺の企画等、一生懸命やってくれたなというふうに思っておりますので、成果は十分に上げられるという自信はございます。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 大変いい方向に向かっているなというふうに、ただいまの市長の答弁から承りました。

しかしながら、検証を踏まえると課題等も浮上しているのではないかとというふうに考えています。そのことをお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） まさにおっしゃるとおりです。つまりしっかりと検証したり議論をして物事に進むということは、課題がはっきり見えてくるということです。同時に、課題というのは英語で言うとチャレンジというふうに言います。だから、課題はプロブレムと、問題として置いておくのではなくてチャレンジするものだというふうな考え方で私は進んでいきたいと思えます。

その中で、宅地開発指導要綱、技術基準、これらは重要です。先に外山のソーラー開発、この件も課題としてございました。これらについ

ても、そのどこが悪い、ここが悪いというよりは、しっかりとそういうふうにならないように予防策としても自分たちの指針を持つということが重要だと思います。

また皆さんも非常に興味のあるところだと思いますけれども、ウイメンズ・チャイルドクリニックの構想、これらについても様々なところでうたわれてはありました。私正直申し上げて、それはどういう根拠に基づいて、どういう予算、どういうコンセプトでつくっていくという計画に基づいているんだらうかということが明確に市長になる前は分かりませんでした。

現在、市長になって、まずその根拠というものをしっかりと勉強しようと思ったんですけれども、この根拠について、予算、規模、コンセプト等、明確になっておりませんでした。これをまずは私は現状とどういうふうになれば、どういう予算があれば、それができるのかということとしっかりと分析して計画にする、計画できるようにする。はたまた議論できるようにするということに持っていくということが重要だというふうに思いました。

それで、様々な調査をしております。現状、そういう医療に関することは、どういう環境があればできるのか、幾らぐらいのお金があればできるのか。これらをまずベースの課題として皆様に御提示していかなければ、これは議論にもならないと思います。必要なことは、もうこれはもう誰も疑う余地もないことです。ただ実現するために何をやるかということが重要だと思います。

また、農業、遠野市の基幹産業である農業について、今、ウクライナ、ロシア、問題になっています。日本政府、アメリカ政府様々、政府間の中では、中国、台湾の問題も浮上しております。

飼料が足りない。これは、どうしたらいいんだらうかと。全て輸入に頼る農業ではいけないだらう。遠野でも、もちろん日本政府も考えることでありますけれども、遠野市としても、どういうふうな形で、そこに臨んでいくべきかと

いうことは十分話し合って、チャレンジしていかなければいけないと思います。

また、ワサビやホップなど、しっかりと遠野の特産と言えるものがありますけれども、さらに進化させていくというチャレンジがなければいけないと思っています。

あとはどう言ってもグローバル人材、人材育成です。コミュニティ・スクールも始まります。グローバルな人材育成ということは何ぞや。これただ単に、少しばかり英語ができるからグローバルだということでは絶対にはないです。言葉なんか、外国語できなくてもグローバルな人はたくさんいますから、要は人間力です。そういう人間の育成、これが大事だと思います。

コミュニティ・スクールは遠野の持っている底力、地域の力、これと風土、これを合わせて人間を育成していくというものですから、しっかりと教育委員会と共同で取り組んでいきたいと思っています。

また行政区の再編について、第三セクター等も改革、これも先ほどお話ししましたけれども、取り組んでいかなければなりません、しっかりと情報を共有していきたいと思っています。最大の課題、少子化、人口減少、住みやすい遠野、住みたい遠野をつくっていくということが第一です。

将来へ向けたまちづくりとして、過去には議会の中でもコンパクトシティというお話をされた議員さんもいらっしゃったかと思いますが、さらには現在はデジタル田園都市とか、様々な構想が出ていますので、時代が確実に変わっていきますということです。ここに備えて、私たちは課題をしっかりと整理して、チャレンジしていきたいと思っています。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 続いて、宮守保育園の建て替えについてお聞きします。

私は、議会活動報告を兼ね、市民の皆様からお話を伺う政治活動にいそしんだ中で、大綱に人口減少と先ほどお話しされましたが、人口減

少と子育て支援の声が強くて多かったと思っています。

本市は、20歳から39歳までの若年層が平成18年から13年間で約3割も減少し、少子化が驚くべきスピードで進行している。この背景として経済面の不安、育児と仕事の両立の難しさ、年齢や健康面の不安と分析され、歯どめには子育てへの支援が必要と計画書には明記されています。

にも関わらず「子育てするなら遠野」との言葉だけが踊り、遠野の未来を背負う宝、子どもを安心して安全に出産し育てられる環境の整備は立ち遅れていると私は受け止めています。

それは、本市に産科医がないため、妊産婦通院助成制度を創設し、対応するも少額。遠野病院の婦人科は、週に一回、医師の出張診療。出産費用の一時金支給に他の市や町では上乗せをする事例もあるが、本市はない。せめて児童手当は他の市町村に先駆け県事業に上乗せ給付を考えるべき。このように、手厚い支援があれば子どもが増えると考えられます。

増えれば小児科の充実は当然のこと、そして、子どもの保育、育児と仕事の両立に欠かすことができない保育園、これの整備の遅れ。とりわけ築42年と老朽化し、以前から雨漏りしている宮守保育園、これはその最たる例ではありませんか。

先輩の多田勉議員は、3月定例市議会でこれらの整備促進をただされました。市長は老朽化を認識され、基本計画に基づき建て替えを進めると御答弁されています。

課題には、いつも有言実行、それも見せるスピード感ではなく、時を逃さぬ適時の対応で取り組まれる多田市長であります。宮守保育園の建て替え計画、これの進捗状況についてお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 今、時を逃さずというふうにお話を頂きました。非常にこれ重要なことだと思います。

率直に申し上げまして、昭和56年、私が遠野市役所に入所した年でございます。そのときに建った建物。これから建てていくとすれば50年先に、やっぱりこういう話が出てくるのかなというような気がします。

私は、しっかりとその時を逃さず、議論すべきことは議論し、考えることは考えて、計画的に進めるべきと考えております。

例えば、今、建て替えるということは、50年先の場所を決めるということです。デジタル田園都市構想とか、様々なことが言われている中で、50年先にそのものがそこに存在するということです。

そして、これから先、順次、建て替えや改築が必要になるものも、その後までそれらが存在するということです。

ですから私は、ここでしっかりと宮守の50年先のスタイル、これを皆さんでもう一度、特に宮守にお住まいの方々といっしょに議論すべきではないかと。計画を、要するに将来の宮守像もう一回考えるべきではないかというふうに思っています。そのために宮守総合支所は、50年先100年先の宮守を考えるための拠点になればいけないと思います。

ですからワークショップなどをして、その建て替え、私は、すみません、改修、改築というイメージは持っておりません。これは、皆さんと一緒に決めることですが、やっぱり50年先を考えるのであれば、建て替えすべきだというふうにはっきり申し上げます。ただ、多数決の世界ですから、私の考えを申し上げたんですけれども。

それをしていくために、では、坂でいろんなところに自由に動けない、そういう現状の場所に建てるべきか、しっかり公園やほかの子育てパークとか言えるような、その複合的な施設にするために考えるべきか、これをしっかり決めて、宮守の将来の絵を描いて、イメージを共有して取り組みたいというふうに思います。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 明確な御答弁頂戴いたしましたので、続いて、建設の時期についてお聞きします。

以前、達曽部のある酪農家が、健康不安から離農し、療養のため温泉地への移住を望まれ、持ち家や農地等を譲渡したいとの御相談がありました。偶然にも、奥様と子どもさんを伴い都会からUターンされた方が物件を探していると耳にしたので御案内したところ、奥様の一声で移住が決まったのです。

決め手は、子育てへのメリット、八幡の森を背にしたモダンな建築の達曽部小学校。その前には保育園、この一体的景観に加え、求める住まいも近く、子育て環境のすばらしさ、これに魅せられたとのこと。

そして、去年は若者が空き家へ移住、さらに今年、子どもさんお二人を含む御夫婦が、これも空き家への入居が予定となりました。

達曽部の保育園児や小学生が増えます。保育や教育環境の集約・充実、これが子どもを持つ親御さんの心を捉え、移住・定住の授けになる、そのように私は思っています。目指すべき姿、さらには児童保育施設の整備、保育サービス、幼児教育の充実と具体的に記述されている。

市長の宮守保育園の整備は進めるとの言は、こうした背景からと思います。しからば整備は何年度に計画するのかをお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） なかなかこれは厳しい質問ですね。ですけれども、重要なことなので申し上げたいと思います。

例えば、平成28年、29年に完成する予定だった鱒沢地区センター、これがまだ完成していない。そして、もっと改修すべきもの、これも年度の計画どおりには改修されていないというのが現実としてございます。

ですから、何年ということは申し上げると約束になるんですけれども、私はまず1年遅れても、申し訳ないですけれども、しっかり計画をみんなで話し合ひましよう。

例えば、あと1年で保育園卒園される御父兄は、いやうちの子どもは、あと1年なんだからと思うかもしれないです。でも50年先、私たちが残していくもの、これを考えたら1年遅れてもしっかり計画を立てて、それこそ今議員おっしゃったとおり、複合的な子育てのエリアとか、そういう考え方をしていって、宮守の総合計画ですか、これらをやっていって、その中でできるだけ早く、ですからワークショップを急いで開催して、意見交換を十分に、そしてスタートを切れるようになったら早期にやりたいというふうに思います。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 次に、宮守児童館を併設して、場所はワークショップというお話もありましたが、私は宮守児童館を併設して現在地へ建設のお考えについてお聞きします。

さきの答弁では、保育園の建設場所にも触れたと記憶します。地域からは、現在地への声が聞かれます。踏査をしてなるほどと感じました。

建設については、先ほどの御答弁にあったように、宮守総合支所が中心となりワークショップを行い検討すると話されました。確かに、間違いは許されません。50年後を考えた場合に大切なことだというふうに理解します。

地域の皆様は、既に整備に関する見識、確かなお考え、御意見をお持ちですので、宮守地域全体で膝詰め話し合いを持たれ、住民に納得いただける整備を望むものであります。

宮守保育園は、運動広場が狭く、駐車場もない状況ですが、幸い近隣の土地所有者は提供に前向き、現在地であれば運動広場を広げ、また新たに駐車場を整備するにも既存の敷地がありますから、用地買収費は安く済む。

さらに、宮守保育園に宮守児童館を併設して建て替えれば、お隣は宮守小学校、まさに子育ての環境が整う。

現在、旧宮守商工会事務所を使用している宮守児童館、2階の床が抜けそうで危険とも伺っています。事故を未然に防ぐためにも、児童館

の整備に向けた計画変更が必要です。

緑の山を背に宮守小学校、新たに建設される宮守保育園と児童館、拡張した運動広場と駐車場、あわせて周辺民家へ通う通路、これを一体的な整備によって子育て環境が充実し、近隣の市や町等からの移住も期待できるなど、まことの子育てするなら遠野が生まれ、空き家対策にもつながると私は想像をめぐらすのですが、市長の御見解をお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 議員がおっしゃることはよく理解いたしました。さらに、私が先ほど申し上げた理由がありますので、これがよしとなれば、そのように進めるということですね。ですから建設時について、現在の土地もしくは周辺を否定するものではないですということだけ申し上げておきたいと思えます。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 次に、桐町7号線の延長工事と周辺整備についてお聞きします。

私が、現地を適地と思うのにはもう一つの理由がございます。それは、子どもさんを迎える親御さんや、周辺住民の交通上の不便や、除雪の課題が一度に解決すること。宮守保育園に通う道路は一本道。この路線に桐町7号線を結べば、有事の際には迂回路、下地区の方には保育園への近道となります。

この桐町7号線行き止まりのため除雪が対象外で、周辺住民の方々は大変困っておられる。50メートルほど延長工事して保育園道路に接続すれば除雪が可能となり、生活道路として確保されるほか、通園路ともなり利便性が一段と向上する。これが保育園の整備と併せ、一体的に周辺まで整備を図るべきと申し上げた理由ですが、市長のお考えをお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 道路の問題、要望というのは、もう本当に遠野市で年間500件を超え

ているというのが実情です。そして、同時に、道路の改修、計画、これは0.2%ぐらいしか進んでいない。0.2%弱なんですけれども、そういうことで、その生活に身近な道づくり事業、5カ年の計画がございますが、その中を見ていると、この道路については、計画に載っていないんだなということを知りました。

ですから、まずその計画に搭載していくということも、その順番としては必要なことかと思えます。その上で、様々な事業に付随したり関連して進められるところはございますので、その辺は適宜、柔軟に考えていくべきだと思います。そして、保育園が、現在の土地でこういうふうにされる場合は、今の道路ではやっぱり厳しいなというふうな思いがあります。ですから、そういう場合は、総合的に考えていかなければいけないと思えます。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 次の質問に移ります。シカの駆除目標の状況について伺います。

シカ対策、再々度と思われるでしょうが、シカの脅威、農作物ばかりか、自動車や汽車への衝突事故など被害が拡大している。これを重く捉えるがゆえからであります。

岩手県内全域のシカの個体数は10万7,000頭、遠野を含む北上高地、南部地域には、その約8割、8万7,000頭が生息と推定値ではありますが、岩手県が公表しています。

年間、岩手県全体の駆除の数は2万5,000頭、遠野市は約4,000頭。この駆除実績からすれば減るはずはなく増える一方です。

これまで私は、和歌山県で実施された夜間銃による駆除、市営牧場等へ囲みわなの設置、あるいは当局で有害鳥獣駆除の専門家、アドバイザーの委嘱まで提案したのですが、当局、当時の市政は残念ながら前向きでなかった。

そして現在、本州以南の最新のシカの数200万頭を超えてしまった。2023年度までに135万頭まで減らすとした政府の目標と大きな開きとの指摘が日本農業新聞で出された始末。

先般、ある猟友会の方と話し合う機会がありました。その方の地域では、11月から4月までに500頭ほど駆除したと胸を張って話されました。本当に頑張っておられる。感謝の気持ちでいっぱいであります。

しかし、課題を提起されました。駆除はするが、その後、シカの埋設等が大変。そのため駆除意欲がそがれる。何らかの手だてが必要ではないか。

お隣大槌町での先進的な取組の例があるが、遠野ではいかに、遠野ではいかにとのこと。これが本題ですが、その前にまず、本市の本年度の駆除目標に対する達成度合い、進捗の状況をお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） これ本当にシカの被害は切実な問題と捉えています。当たり前のことをやっているのは、本当に追いつかない、こういうふうに思います。そこで、駆除の目標と状況についてお答えさせていただきます。

数というのは、上限定めるべきではないなど。できるだけ捕獲圧を高めて駆除しなければいけないというのがあります。それについては課題もあります。また、これ後ほどお話ししたいと思いますが、その中で調べました。令和2年度は2,371頭、令和3年度2,784頭、捕獲数は増加しています。県内では最も多い捕獲数ということでございました。一定の成果を出していただいているなど猟友会の皆様、それからわなをやっていた皆様、担当課も頑張っているなどというふうに思っております。

県全体の捕獲目標が、1万頭から2万5,000頭に変わりました。これもやっぱりその切実な思いからだというふうに思っています。当市では、今議員お話ししたように、その高原での様々なこととか、いろんな手を使って、そこにチャレンジしていきたいと思っております。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 次に、近隣の市や町

との連携についてお聞きします。

令和4年2月22日の市長施政方針演説を思い返します。市長は、大綱別の取組、大綱3で、シカによる農作物被害を低減させるため国や県の事業を有効に活用し、地域ぐるみの防除と駆除の取組を強化すると。また、県や近隣の市、町との連携を図り、広域的な取組を推進してまいりますとも話されました。

それは、前任者、前の市長がいつも話されていた内容と全く同じと感じたのは私だけでしょうか。しからば、その連携、広域的な取組、これをどのように実践をなされておいでか。

近隣の市や町と駆除協議会の設立とか、広域市町圏で市や町の圏域で毎週何曜日かに駆除の日を定め一斉に駆除をしているかなど、具体的な活動事例をお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） まず、その活動について、地域が県南、沿岸、盛岡、県北と、4つの地域に分かれて活動しております。その中で、平成28年、29年には、巻き取り一斉捕獲を住田町と実施したという実績がございます。その後、29年にはイノシシの対策についての研修会を行ったと。釜石と連携して捕獲を行うという計画はあったんですけども、これは実現しなかったというふうに聞いております。それ以降、近隣市町村との連携というのは主立ったものはないというふうに思います。

そこで私は、市長になる前に視察して歩いたことがあります。これは滋賀県の方から秋田のほうまで歩いてきました。滋賀県は最も進んでいたような気がします。滋賀県で岩手のこと、東北のことも大分教えてもらいました。

それは何かって言うと、やっぱりその境界がないんですね、動物は移動するので。要するに市のような行政境界がないから、これは市の分だとか何々の分だということはできないわけですね。ですから広域的に取り組まなければ効果は出ないよということももうそのときにもうお話しされておりました。私も同感であります。

そのために何が必要かと言いますと、私はまずコミュニケーション、行政間のコミュニケーションが重要だと思います。

運よく近隣の市長さんたちと、私結構、交友関係がありますので、市長さんたちと話をしています。いろいろその辺のところも相談しましょうと、取り組みましょうよと、一緒にやらないと解決できませんよねと、そういう話を常に会ったときにさせていただいております。

そして、近隣の市長さんたちも、いろんな意見交換で1回集まりましょうという話もしてくれていますので、これを進めていきたいと私思っています。まずは人間関係、そして、良好な意見交換をできる関係、これをつくって取り組んでいきたいと思っております。

また、大槌で今おっしゃった、いい取組があるということで、私もあの時は仲間と遠野まごころネットっていうものをやっておりました。現在もありますけれども、彼らから相談を頂きました。こういうふうにしたいんだと。できる限りの応援をしようということで、仲間たちと一緒に彼らの拠点となっているプレハブを遠野まごころネットから寄贈させていただいたという記憶がありました。今懐かしく思ったし、頑張っているなということでもうれしく思いました。そういう形で近隣とはしっかりと向き合っていきたいと思っております。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 続いて、被害額についてお尋ねします。

大綱3、農林業の振興、野生鳥獣による農林水産物等に対する被害防止対策では、施策の強化により現状の被害額1億円の維持を目指すとあります。被害を減らすのではなく、現状の維持とは全くもって消極的な指標。これにはただ驚くばかりであります。しかし、百歩ではなく万歩譲って、それが目標なら、目標であるなら、被害額は増えずに保たれているのか、現状分析をお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 議員おっしゃるとおりです。1億円維持を目指すというのは実に悲しい、その目標であって、ゼロに近い方がいいわけです。本当に何もならないので。これは、この現状ではゼロとは恐らく言えなかったんだろうという部分を御理解いただきたいんですけども、本当に少なければ少ないほどいいと。

そのために、現在、そうですね、連作、それと様々なそれに使える交付金等を担当課のほうも頑張って何とか使えるようにということをしています。

それと、すみかとなるようなやぶを増やさないように、行政も地域も農家の方々も一緒になって予防しなければいけない。これは、その被害額を増やさないためには防除というのも一つ必要だと思います。山際のところで防ぐということも、その頭数は減りませんが、防除することで作物の被害を減らすということもしなければいけないと思っています。ちなみに、ニホンジカの被害は9,901万円でございます。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 1億円を切っているということでもございました。

次に、市当局で考える実効的な駆除の策について伺います。私は、日頃から市内を歩き、現場で市民の声を直接お聞きしています。シカが水田に入り込み、田植えしたばかりの苗が食べられる、踏み荒される、収穫前の稲穂が食べられるなどが常態化どころか増加し、とうとう水稲の作付を諦めたとの声も聞きました。

畑では、宮守町塚沢地区で、前の日にマルチをしておいた野菜が、その夜に踏み荒されたとお話も伺いました。牧草地では、新芽が食べられるばかりか、踏み倒され、収量が減少して困っているところに、ウクライナへのロシアの侵攻により肥料や燃料、デントコーン等飼料、ラップ材など生産資材価格が高騰し、畜産農家は経営が厳しいと嘆いておられる。

資材価格高騰への対応は、地球規模のことで

すが、シカ対策は遠野でできること。緊急に駆除の強化を図ることが必要です。

先ほど市長ちょこっと触れましたが、当局では、防除・電気柵を盛んに奨励しますが、それをおかいくぐり侵入するのです。それでも農家はこれしかない、電気柵やピンクのビニールひもを一生懸命張り巡らす。しかし夜、柵の中に群れて群で侵入している光景を目の当りにし、まるでシカ牧場とあきれるように話しておられる。

人間がつくる牧草や水稻、野菜などの農作物がシカの餌となり、個体数増加の助けになっている。これは既に農家の自衛と猟友会の皆様のみでの対応には限界を来している。この状況から脱するには、想像を超えた発想、自衛隊や警察官OB、全国の猟友会の方にまで協力を依頼して、シカ駆除応援隊を結成などして徹底した駆除を図る、そう私は思い浮かべるのですが、どのようにお考えか、当局で考える実効的な策をお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 本当にこれは悩ましい問題です。ただ、絶対に対応しなければいけない、対処しなければいけない問題です。

先ほど提案されました自衛隊のOBとか警察のOBの方にも御協力を頂くというのは一つのアイデアとして必要だなというふうに思います。

また、遠野市では、今、今年度岩手県と一緒に高原でわなをたくさん仕掛けると。それをICTを使って、わなに入ったら、これが携帯電話で知らせられるということを進めています。これで一つの見回りという部分の労力を省けることもあります。

そういうことも含みながら、もう一つは同じく高原で例えばシカにGPSを、雄に撃ち込みます、例えば。それを感知します。感知したときに警報が来ます。そこで例えばその格納庫からドローンが出て行って追い払うとか、嫌なものをまくとか、追い払う。それと、そのドローンの草刈り機械みたいな今あるんですね。

これらもう全てこの映像を使えるので、映像を使って牛とか馬とは別に、そのシカを見れますので、パイロットがそれを確認しながら、そういう進み方をしていって、その駆除はできないけれども防除、追い払うってことはできるかなということをおこないだ大手の民間通信会社に提案をいたしまして、今これに取り組めるかどうかということをお話をしています。いずれもいろんな手を打たなければいけない。

もう一つ、同時に滋賀県の方で私が見に行ったときに、非常に効果を上げている市町村がありまして、これはモンキードックでした。

モンキードックというのは、その時からですから、今ちょっと時が流れていますけれども、岩手県だけでしたね、やっていなかったのは東北で。釜石で一度やった経緯があるんですけど、その後やめてしまった。私も市長さんにお伺いしに行ってきました。

これを、特別な犬じゃないんです。飼っている犬をしつけ、訓練をして、月に1回ぐらいずつ訓練を積んでいくと、普通の家庭の犬がモンキードックになれるというシステムでした。これをやっているようです。これは非常に効果があるよということをお伺いしています。これは追い払いです。

例えば、その周辺に余りたくさん家がない、民家がない集落などは、その実証実験には非常に適しているのかなというふうに思っています。あらゆる手段を使っていかなければいけないということです。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） 大変希望の感じられる御答弁を頂戴いたしましたが、モンキードック、考え方によっては放し飼いというふうな苦情が十分考えられるなというふうに思ったところではあります。ドローンについては、これ可能性がある。市民の皆様も安心しているのではないかとこのように思います。

最後に、本題となります。シカの解体処理加工施設の建設についてお聞きします。

お隣大槌町では、シカ肉加工工場を設け、シカ肉の販売などを手がけています。先ほど御紹介されましたが、市長はこの工場建設に多大な御協力をなされたとか、そのようにお聞きしています。

以前、私は、遠野市農業委員会会長として岩手県選出国會議員との懇談会に出席した際、シカ被害の実態を訴えたことがあります。するとある議員から、「遠野市にシカ肉でペットフードを作る工場はどうか、建設場所はありますか」と問われました。私はとっさに綾織町のごみ処理場が頭に浮かび、「あります」と答え、遠野に戻ってその旨報告したのですが、当局は全く動かず実現に至りませんでした。過去にそうした経緯があります。

シカの駆除の数を増やす。それには駆除後の個体処理負担の軽減、これが不可欠です。そこでペットフードの製造に加え、動物園の猛禽類、猛獣用の食肉も販売するシカの解体処理加工施設の建設を提案するものであります。

農林水産省農村振興局に鳥獣被害防止総合対策交付金制度、シカ解体処理加工施設の整備に補助率2分の1の事業があると認識します。補助残には地方交付税の算入も考えられ、市の持ち出しがほとんどない可能性があります。

これによって建設すれば、猟友会の皆様、くくりわなで捕獲する皆様の駆除後の負担が大幅に減るばかりか収益が得られる、また解体処理工場の創業は新たな産業おこしにもなる。こうすればシカの数と被害が減ると私は大きな夢を持つのですが、市長の御認識をお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 現在は、その個体を処理するのに60センチ四方にカットして処理しなければいけない。3つか4つぐらいの袋になるわけですね。これをやる。あとは地中埋設をする。これでは捕獲圧を強めるといっても進まないでしょうというのがそのとおりでございます。

私は、そのビジネスのチャンスとして、そのペットフード等は十分にあると思います。私も

ペットを飼ってるんですけど、犬が元気がなくなってきたときはシカ肉がいいんですよ。ですから、ペットフードにはシカ肉は最適です。現在、遠野市は、放射能の問題が少しあるんですけども、大槌でもそれはクリアしながらやっている部分があります。ですから考えるべきかと思えます。

これについて、その補助金も十分活用できると思いますが、民間事業としてビジネスチャンスと捉えてやっていけるような体制が望ましいと思っています。しからばどうするかと。自分からやるというような話も少し聞こえてきたりもしています。

この場合、最終的にはその残材ってありますか、その残ったものを処分するという作業もこれまた必要になるわけですね。ほかの許認可も必要になってくるので、様々なところで関係が出てきます。これはしっかり研究して、民であれ官であれ考えていかなければいけないことだというふうに考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 4番佐々木敦緒君。

〔4番佐々木敦緒君登壇〕

○4番（佐々木敦緒君） ただいまの市長の御答弁をお聞きして、猟友会の皆様も、そして、市民の皆様も勇気を与えられたのではないかと、いうふうに考えています。もしかして、処理場できれば、今まで埋設に大変苦勞しておった。これが軽減される。そしたら、もう少し駆除してみようかと、そういう気持ちになる、そういう希望を与えた御答弁だったというふうに認識しております。

宮守保育園の建て替え、達曽部保育園も屋根と壁の合間の劣化、宮守小学校も中学校も同様、傷みのある場所が散見されました。せめて外壁の塗装をするなど子どもたちに親しみと愛着が感じられる保育園や学校の保全整備が速やかに図られることを切望し、6月定例市議会、私の一般質問、以上で終わります。

○議長（浅沼幸雄君） 午後1時まで休憩いたします。

午前11時54分 休憩

午後 1 時 00 分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） 佐々木大三郎でございます。事前通告に従い、一問一答方式により大項目 2 点について伺います。

まず、1 点目の旧土淵中学校の活用策については市長に、そして、2 点目の遠野郷しし踊りの伝承活動については、前段を市長に、後段は教育長に伺ってまいります。

質問に入る前に、今年は、新型コロナウイルス禍で中止されていた遠野さくらまつりのメイン行事である南部氏遠野入部行列が 3 年ぶりに復活しました。加えて、郷土芸能や弁当テイクアウト祭りなど、関係者の創意工夫と御努力により久しぶりの盛り上がりを見せていただきました。

また、先日、地元紙で報道されましたが、S MC さんの関連企業 21 社が遠野東工業団地に立地を決定され、430 名ほどの雇用が見込まれるという明るいニュースも入ってまいりました。このような朗報は、観光客などの交流人口の拡大や、若者の地元定着による少子化対策と人口増加、活性化などに好影響をもたらすものと期待されます。多田市長におかれましては、この好機を着実に生かしていただき、山積する諸課題の解決につなげていただきたいと思います。

それでは、1 点目の質問、旧土淵中学校の活用策について伺います。

私はこれまで、遠野市政は箱物行政だということを度々指摘してまいりました。しかし、改善の兆しは見えてまいりません。そこで、箱物行政はなぜ評判が悪いのか、北海道の夕張市を例に御紹介させていただきます。

夕張市は、炭鉱閉鎖により人口が減少し、主要産業もない中で、改善策として国の補助金などを使って観光などの公共施設を多く造ってき

ました。しかし、この施設を十分に活用することができず、維持管理費だけがかさみ財政危機に陥ったのです。そのため公共サービスは削られ、税金は上がり、施設の利用料金なども上がり、さんざんな状況に陥ってしまいました。その結果、ますます市民の流出が加速し、衰退に駄目押しがかかり、財政破綻を来したのであります。

さて、当市の最近十数年間の行政内容はといいますと、建物整備に重点を置いたハード中心のまちづくりであったと、私は認識しております。

しかし、財政状況の悪化とともに、この建物や設備の維持管理と更新に要する費用は大きな負担として重くのしかかっております。しかも、市内の人口減少と観光客の減少により活用不十分なものや、施錠され遊休状態に置かれている公共施設が幾つか見受けられます。これはまさに税金の無駄遣いであると指摘せざるを得ません。このことについて、市長の現状認識と御見解を伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） それでは、なぜ箱物行政ということに関してお答えします。

なぜ箱物行政と呼ばれるかということが、まず 1 つ問題であると思います。これは中身が、活用の中身が伴っていない、こういうことがまず 1 つあるだろうと思います。そして、市民の満足度、要するに市民がこれはもっともだと、重要で有効だとするような活用の仕方、中身があるかどうかで、それが箱物と呼ばれるかどうかということになるだろうと思います。

なかなかこれは難しい回答であります。思い切って答えなきやいけない部分とそうでない部分とあるので、御容赦いただきたいと思います。私も市長になりまして 7 カ月になります。当初、私も言いたいこともたくさんありますし、驚くことも、何と申しますか、それこそ怒りに近いようなこともありました。

しかし、いろんなことを調べ話している中で、

職員の理解というのは市民とほぼ同じです。職員は事務の補助者であります。ですから、私は間違わないようにしっかりリーダーとして機能したいと考えています。要は、これまで頑張ってきたみんなの気持ちを思うと、そこは現状まず耐えると、そしてしっかり解決していくという覚悟でやらなければいけないと、こういうふうに申し上げたいと思います。

箱物をあえて言うならば、造るために市民の大事なものを犠牲にします、置き去りにしてしまいます。そして、私たちの次世代に何を残していくかということが私たちは大事な選択をしなければいけないんですけれども、そこにいわゆる有効でないものがあつた場合、それを残してしまうということに私は非常に違和感を感じています。

壊す力というの必要です。しっかりと次世代に残すものをみんなと協議しながら整理するものは整理する、そういうことをしていかなければ、いつまでも箱物行政と呼ばれるし、市民の大事なものを置き去りにしてしまう、何とかここは踏ん張っていい方向に持っていきたいというふうに思います。

ちなみに、遠野市は現在293の公共施設を保有しています。高度成長期には必要だった部分もあると思います。今から皆さんと一緒に精査しながら、次世代のことを考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） ただいまの答弁内容、市長の心のうちは私の思いと同じような考えなんだなという感じで受けましたので、見解、所見を述べないで、次の質問に入らせていただきます。

参考までに述べさせていただきますが、今年度の遠野市の一般会計予算額は171億円であります。この財源の内訳は、国や県からの依存財源は125.2億円ですので、全体に占める割合は72%にもなっております。

一方、自由に使える市税等の自主財源は僅か

45.8億円で26.8%にとどまっております。この少ない自主財源の中から建物の維持管理費として20億円を投入しているのが、我が遠野市の現状であります。これは、岩手県内や全国の類似自治体と比べて非常に高い状態であります。しかも、少子高齢化と人口減少、若者の市外への流出に伴う生産年齢人口の減少や、新型コロナウイルスの影響などにより、今後ますます国からの交付税は減額され、市民税も減収が見込まれております。

一方で、歳出の人件費や扶助費、公債費等の義務的経費は減少傾向にある中で、公共施設の維持管理費だけが年々増加傾向にあります。

ちなみに、公共施設の維持管理費は、平成28年度が17.4億円、令和元年度18.7億円、令和2年度は20億円ですが、さらに今も増え続けております。私は、この市政の現状に不安と矛盾を覚えますが、市長の御見解を伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 議員おっしゃるとおり、現在の状況は非常に多額の費用が必要であるということでございます。

適正で公正な公共施設の維持管理に努めていかなければならないということは大前提として、現在、計画策定時の試算では、これから更新をしていくと685億円、遠野市はそのために必要になるという結果が出ております。

国の基準単価でございますから、それよりは少し下がるかもしれませんが、ただ、ここをどうしても圧縮しなければいけない、これを私は次の世代にバトンタッチせずに、しっかりと現世代で次世代にいい環境をつなげる、そしていい環境をつなげるということは、未来にチャレンジできる環境を整えていかなければいけないというふうに思っています。

維持管理費はどう考えても圧縮しなければなりません。そのために議論して、皆さんの意見を伺いながら、思い切った決断も必要になるだろうというふうに思っています。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） 685億円、とんでもない数字が示されました。言わせてもらいますが、自由に使える自主財源は45.8億円、先ほど話しました。このうち約半額を公共施設の維持管理のために回さなければならないという当市の現状は、別な表現をしますと、公共サービスに回すお金は不足しているということにほかならないのであります。

身近な例を挙げれば、市内にある公共施設や上下水道、ごみ処理、出産・育児、介護などに係る費用の補助金制度などが当たるわけであり、これは生活のあらゆる場面で利用しているサービスですから、人によっては当たり前のように感じているかもしれませんが、当然、自治体によって公共サービスの内容に差があるわけであり、

そのために、ほかの自治体に引っ越してから初めて行政サービスの違いに気がつくことと申します。

我が遠野市はいかがでしょうか。公共サービスに回すお金が不足しているわけですので、当然よその自治体と比較して遠野市の公共サービスは悪い状況に置かれていると、私は認識しているところであります。

この認識の下で質問させていただきますが、私が箱物行政と指摘する要因の一つとして上げるのは、旧土淵中学校の活用状況であります。そこで伺います。旧土淵中学校の今の活用状況はどのようになっているのかについてお答えください。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） ちょっと前段で、先ほどの質問のところで補足をさせていただいてよろしいですか。

使えるお金をつくっていく、生み出していくというのはもう既に始まっております。新年度予算、決算の中でもいろいろ職員が苦勞して基金に積み立てたり返済をしたりということを続けております。現在もその形は続けております。

あえて申し上げれば、今新たに余裕を持って投資を始めていかなければいけない。民間の事業投資をしなければいけない時代でありますから、そこに本来はお金を使っていきたい。そして市民サービスにお金を使っていきたい、これはもう申し上げるまでもないかと思えます。

そこで、次の質問にお答えをさせていただきます。

最も重要なのは、市民の満足度だと思います。市民の満足度、今までの旧土淵中学校の活用を見ていて、市民の方々がそれでよしとされているかどうかということは、大きな測る尺度になるかと思えます。私は、大きな尺度で見たとしても、満足ではないというふうに思っております。

入居状況を申し上げますけれども、現在は、令和3年度から継続して3事業所が入居しております。4月から2個人が革製品工房や絵画教室の目的で新たに入居し利用をしております。

もう一つは、文化課で書籍の保管場所として使っております。

5月の末に新聞記事に掲載されましたが、絵画教室の様子が新聞に出ていました。地域住民の方が気軽に絵画を始められ、親しめるようにということでした。とてもいい企画だなというふうに思っています。私もその方々の一ファンとしてすごく期待しております。

また、ほかに問合せもございます。県外の方も問合せがあるようです。これからしっかり精査をして、入居者というのは決めていかなければいけないと思いますが、いずれにしても、もっと自由に使えるように、人が本当にいつでも気軽に訪れることができるような施設にしたいと思っております。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） 今までは3つの事業者が入っていて、最近新たに2つの個人の事業者と申しますか、入っていただいたと。その一つが革製品の工房、それと絵画教室という御答弁、これからもまだ引き合いがあるというよ

うな希望ある御答弁だと思います。このことは評価しますし、評価できると思います。

ただ問題は、これまでの取組に疑問と不満を覚えますので、その辺伺ってまいります。

私は、これまで疑問に感じ再三にわたって質問してまいりましたが、改めて遠野みらい創りについて伺います。

このみらい創りカレッジは、平成26年4月に遠野市と富士ゼロックス株式会社両者との運営協定締結により開校されました。設立目的は、まちづくりや芸術・文化・産業などの分野において、相互に連携しながら交流人口などの促進を図るという大変広範なものであります。

開校に当たっては、校舎の改修整備が行われ、レストランも新たに開設されました。この改修に関わる費用は総額で約1億6,870万円に及んでおります。加えて、遠野みらい創りカレッジ開校から昨年度まで8年間の業務運営委託料は5,480万円になっております。このことからお分かりいただけるように、これまで遠野みらい創りカレッジに投入してきた税金は、総額で2億2,350万円という、とてつもない金額になるわけであります。

そして、開校当初の運営は、当市からの派遣職員1名を加えて6名体制で行われておりました。この結果、開校当初は市内外から多くの利用者が訪れ活況を呈しておりましたが、やがて富士ゼロックス(株)は撤退され、開校から9年目を迎えた今日、常駐社員は不在状態で利用者もほとんど見受けられない、惨たんたる状況に置かれているようです。なぜこのような状況に陥ってしまったのでしょうか。個別具体的な内容は後ほど伺いますので、まずは、一般社団法人遠野みらい創りカレッジ全体の活用状況の現状について伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 今、議員がおっしゃったことが市民の方々の十分な満足度に至っていないところだと思います。その満足度によって、この活動、この使い方を続けるかどうか

かということの判断になろうかと思えます。

そこで、レストランについても十分ではないと、むしろ有効な活用ではないと、もっともっとベンチャービジネスも入れる余地はある、遠野にはそういう可能性がある、そういうふうには思っております。

現在の状況についてということでございますから、活用の状況、現状については市民センター所長のほうから詳細をお答えさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○議長（浅沼幸雄君） 市民センター所長。

○市民センター所長（海老寿子君） 命により、一般社団法人遠野みらい創りカレッジの職員の配置状況と利用状況について答弁いたします。

令和4年4月以降、一般社団法人遠野みらい創りカレッジは、市の事業業務委託終了に伴い業務が縮小したことから、非常勤職員1人となり、入居場所を旧職員室から旧校長室に移動し継続利用しております。

常駐職員は不在ではありますが、市外で事業を継続しながら、不定期で旧土淵中学校内でも業務を行っております。

近年の利用状況は、新型コロナウイルス感染症の影響により人の流れの変化や、交流の形態の変化により利用者は減少しておりますが、開校から9年目を迎えた今年度も、首都圏の高校生、大学生、市内の高校生などが交流できるプログラムを企画し、8月に開催を予定しております。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） 少なくとも私の今までの認識は、このみらい創りカレッジは、通年的に利用すると、利用されるというふうに理解しておりました。

今の御答弁は、高校生の夏休みを利用しているということでありました。ということは、利用者の数はほとんどとは言いませんが、まあ、当初の目標値に比べたらほとんどに近いほど利用者は少ないと私は思いますが、いかがですか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） お答えします。

そのとおりです。私もその点満足がいかない、市民の方からもそういう声をたくさん頂いております。ですから、ここはリセットしなければならない、そういうふうに考えております。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） この一般社団法人みらい創りカレッジの運営状況についてですが、私は前市長にも度々疑問点を示しながら質問をしてみたいです。

当時の市長答弁は、いつも楽観的なものばかりでした。当時、多いときにはたしか7万人、5万人といった人が利用されたというような記憶が残っておりますけれども、それが今ほとんどないということです。

しかし、多田市長に代わった途端に、私の懸念が一気に表面化してしまったような感じがしてなりません。なぜこのような状況に陥ってしまったのでしょうか。何か予期してこなかったような情勢、あるいは事態でも発生したのでしょうか。先ほどはコロナという話もありましたが、それとも最悪状態が表面化してしまって、もう隠し切れない状況まで追い込まれてしまったということでしょうか、その辺の現状認識を伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 例えば運営するために費用が必要になりますね、一般社団遠野みらい創りカレッジですか、費用が必要になると思います。それは、これまでは遠野市から委託事業としてお支払いをしていたと。

今回、その予算を計上しませんでした。なぜならば、リセットが必要だと判断したからです。それが原因で活動ができていない。しかし、レストラン、ほかの一般社団法人や団体と同じように、自主運営ということが基本になっておりますので、それは自主運営をしていただけたらと思います。

その閉店、その他のことについては一般社団法人、その総会または理事会で決められたことだと思いますので、その点は私たちのほうからはお答えできませんけれども、そういうことが原因で今の状態になっている。市としてはリセットしたい、もう一度地域住民の方と本当に活用していただける形にしたい、その1点でございます。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） ただいまの御答弁の中にあつたかと思いますが、確認という意味で質問しますが、今後の運営方針についてであります。

これまでどおり、一般社団法人みらい創りカレッジの自主運営に委ねるといふことでしょうか。それとも市として何らかの手を加えていくということなのか、その辺について伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 一般社団法人の自主運営に委ねると申し上げたほうが分かりやすいかと思っております。

というのは、ほかの団体、一般社団法人もNPO法人もたくさんございます、遠野には。同じようにみんな日々頑張っております。これらと何ら変わりませんので、今までどおり活動していただくということは今問題はありません。

ただ、市がそこに手を加えるということは今のところ考えておりません。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） ただいまの答弁から、今までのやり方では以前のように多くの利用者は私は望めないと思っております。改善に向けて、ここはきっちりと原因を分析していただいて、その上で新たな発想と視点を持って、特に多田市長は、全国にいろんな人脈お持ちの方でありますし、フットワークもいい方ですので、ぜひその強みを生かしていただいて、そしてやっぱ

り地域住民の積極的な関わり、参画、これを促しながら新たな活用策を見いだしていくべきと思いますが、いかがですか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） そのとおりだと思います。現在もう既に実はいろんなところから遠野に来ております。いろんな関係者、大学関係者、企業関係者、有名な企業さんもおります。様々な方に見ていただきながら、遠野のよさ、コンテンツのすばらしさを見ていただいています。

その上で、土淵中学校にも訪問していただいて、その活用についても議論しています。もっともっと柔軟に多くの人に使ってもらえるようにしたいと考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） 私の質問の思い、御理解いただいたようですので、次に入りますけども、テレワークセンターに配備された高度情報通信機器類の利用状況について伺います。

この部屋には、テレビ会議システムや監視カメラ、超高精細プリンターなど総額で1,000万円ほどの機器類が導入されております。そこで質問ですが、これまでどのような方がどのような使い方をされたのか、また、現在の利用状況はどのようになっているのか、伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） お答えします。

このテレワークセンターは、様々な方が遠野に来て、仕事ができるような設備にする、施設にするということで、高額な機械を入れたり、準備をしたというふうに認識しています。

ただ、時代に合っているのかどうかということは甚だ疑問であります。これがどうしてもそこでなければ機能できなかったのかということは、私は疑問です。そして、これまでの実績、これもある程度私も調べましたが、リセットしてやり直さなければいけない状況だから、リセットしたいというふうに思っています。

その内容につきましては、これまでの利用状況につきましては、経営管理担当部長から詳細をお答えさせていただきます。

○議長（浅沼幸雄君） 経営管理担当部長。

○総務企画部経営管理担当部長（佐々木啓君）

命により答弁いたします。

テレワークセンターにつきましては、平成28年度に整備し、昨年度まで6年間実証事業に取り組んだところでございます。

本施設には、通年利用型のサテライトオフィスと短期利用者向けのコワーキングスペースを整備しており、一般事務や開発研究オフィスとして利用できる環境を整えております。

平成29年度の開設から、サテライトオフィスには延べ2社が入居しており、首都圏企業の遠野での体験プログラムやオンラインイベントの実施、市の包括アウトソーシングの受託事業者の事務所として利用されております。

また、コワーキングスペースについては、起業家によるオンライン商談やイベント等への利用のほか、大学生によるリモート学習などの利用がありました。

昨年度でテレワークセンターとしての運営は廃止しましたが、現在、整備した施設につきましては、遠野みらい創りカレッジの管理方法の見直しに伴い、コワーキングスペースの利用については休止、サテライトオフィスについては、引き続き利用されております。

以上、答弁といたします。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） 参考までに年度別の利用目標数と実績値、これについてお答えください。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） これにつきましても、経営管理担当部長からお答えさせていただきます。

○議長（浅沼幸雄君） 経営管理担当部長。

○総務企画部経営管理担当部長（佐々木啓君）

命により答弁いたします。

それぞれの目標値ということで、開設当初、平成29年度につきましては、コワーキングスペースにつきましては、840人の目標値に対して551人ということで、利用がかなり多かったということですが、翌年度から利用につきましては平成30年度が80人、令和元年度が70、令和2年度が99、そして昨年度は38ということで、年々ちょっと減少したという状態でございます。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） 利用状況と実績、当初の目標値からおよそかけ離れた数字、実績値だなど思いました。簡単に言えば、最近は1カ月平均しますと、3人程度しか利用していない計算になるはずであります。これは、結果論になってしまいますが、全くもって計画性のない無謀な事業であったと私は反省しておりますが、今後の活用計画、活用策についてどのように考えておるのでしょうか。

このままこの部屋を残して今までどおり利用していくということでしょうか、その辺についてお答えください。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 今のコワーキングスペースの活用ですね、既に高額な機械のほうは使えないという状況です。まず、維持管理ができないということです。

それと、現在はこれまで光ファイバーケーブル、これはこの間遠野テレビで整備いたしましたので、遠野テレビの光ファイバーケーブルに切替え中でございます。

それで、その上で全施設を使えるようにすると。ですから、共有スペースがあれば仕事様々できます。ですから、特別なコワーキングスペースというのは不要かと思えます。

また、デジタル田園都市構想というのがございまして、どこにいてもどんな国でも仕事ができると、こういうことがうたわれてありますの

で、時代は進化しているというふうに思っています。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） 今後の利用計画について、今の御答弁全くもって残念、無念であります。実際、この事業を始めたのは多田市長じゃないから、責任取ってもしょうがないんですが、いずれ市民の皆さんも今の御答弁を聞いたら、この事業は何だった、何のためにやったんだ、あまりにも無謀過ぎるんじゃないかという声が多く発せられるような気がしてなりません。

次に進みます。

次に、カフェレストランについて伺います。

当時、このレストラン開設には議会内でも疑問が沸き上がって、議論に議論を重ねた上で令和元年6月に開店しております。このときに当局から示されたコンセプトは、地域の活性化につながるアイデアを具現化する拠点にするとか、地域食材と地域産品の魅力を発信する、そして、営農者支援及び伝統野菜等の利用を促進する、さらには、周辺施設等との連携により地域経済の循環を促進するといったもっともらしい理由を並べまして、地域の活性化のためにはこのレストランは必要不可欠な施設であるということをお断言、盛んに説明されておりました。そして、この整備工事に7,600万円もの高額費用を投じております。

ところが、開店から僅か3カ月弱で閉店してしまいました。これは全くもって無責任極まりないものであります。市民の一人として許されるものではありません。これは責任問題まで問われるような事案だと思います。

そこで伺います。どのような理由と判断から閉店に至ったのか、お答え願います。

○議長（浅沼幸雄君） その前に、ただいまの質問の中で開店から僅か3カ月余りで閉店という言葉がございましたが、それでよろしいですか。佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） おわびして訂正させていただきます。

3カ年弱、3年弱の間違いでした。失礼しました。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） この閉店につきましては、運営は一般社団法人遠野みらい創りカレッジによる独立採算制の運営ということです。令和4年2月22日開催の令和3年度一般社団法人遠野みらい創りカレッジ第3回理事会において、終了するというふうに決定されたと伺っています。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） これも結果論になってしまいますが、開設当時に当局から示されたコンセプト、これ何一つ実現しないまま、僅か3年弱で閉店、そして膨大な費用の損失だけが残ってしまったと。このまま済ませるわけにはいかないと思います、私は。

そこで伺いますが、レストランの後利用計画について御検討はなされているでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） はい、しております。レストランのみならず、全体、土淵中学校全体の計画を見直すということで検討を進めております。

そして、私もこのレストランについては、先ほど大三郎さんから、どうですかと、箱物行政についてということをお聞かせしましたが、その中で私も悔しい案件の一つであります。レストランについては、当初のコンセプトは素晴らしいと思います。これが本当に追求されたのかどうかというところが問題だと思います。

これを地域の皆さんと一緒にこのコンセプトを追求するように使えるかどうか、またはワンデーシェフとか様々なトライしたい方に有効に使っていただけるような体制を取れないかどうか、これらも含めて検討していかなければいけ

ないというふうに思います。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） この質問の締めになります。遠野みらい創りカレッジ事業は、当市にとっては壮大なプロジェクトであったわけであり。また、先ほども話したとおり、多額の税金を投入してまいりました。そして、市民の期待も大きかったことと思います。

しかし、御答弁にありましたとおり、この構想は途中で頓挫状態にあります。言葉は悪いですが、適切な言葉は頓挫ということになると思います。これは市民には大きなショックであり、落胆されていることと思います。

については市民の皆さんに対して、これまでの経緯、何でこういうふうになったのか、それと今後の対応策について正確な情報を公表すべきと考えますが、いかがですか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） おっしゃるとおり、情報は公開すべきだと思います。そして、落胆は同時に私も同じでございます。

土淵中学校には、本当に素晴らしい教育目標があります。思い出したほうがいいと私は思っています、みんなで。

心身共に健康で実践力があり、明るく平和な文化国家の形成者としての誇りと責任を自覚し、21世紀の国際社会に開かれた日本人を育成する。

1、総合目標（誠実・勤勉・自主の人間形成）、自ら学び、心豊かな、たくましい生徒の育成。

具体目標、心広く人間性豊かな生徒、誠実。深く考え学習に励む生徒、勤勉。自らを律し実践する生徒、自主。この教育目標が全く現在に合っていると思います。

この学校のやっぱりシンボルになる言葉じゃないかと思います。ここで、この教育目標を見ながら育ってきた地域の人たち、この人たちと一緒にしっかり再構築すると考えております。

私は、リセットすると先ほど申し上げました。

これやってきた事業を、例えば助成を切るとかリセットするというのは、なかなかできません。ですけれども、今まで以上に私は有効に使う自信があるので、こういう判断をしました。しっかりその辺は市民の皆さんにも共有していきますので、よろしくをお願いします。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） これまで当局は、失敗事例についてはあまり公表してこられませんでした。

ただ私は、こういった失敗こそ市民に対して正確な情報をしっかりと公表すべきだということを申し上げて、次の大項目2点目の質問、遠野郷しし踊りの伝承活動について伺います。

まず本題に入る前に、郷土芸能全体について伺います。折しも、地方の経済社会は、少子高齢化や人口減少に歯止めがかからない状況が続いております。そのため、これまでは企業を誘致して産業振興による地域活性化に力を注いでこられたと承知しております。私自身も積極的な企業誘致を提案してまいりました。

遠野市では、このことに加えて、住民の日常の暮らしや地域コミュニティの大切さにも目を向け、その充実を図ることで地域活性化を促すことに取り組んでまいりました。その一例が、郷土芸能の存在と育成・継承ということではないでしょうか。

担当課から事前に頂いた資料によりますと、市内には、各種郷土芸能保存会が65団体あり、このうち2団体が休止中ということでもあります。活動内容について改めて御紹介しますと、観光資源の一つとして祭りや各種イベント会場に花を添え、地域の振興と活性化などには欠かせない存在となっております。

また、芸能の伝承活動を通じた効果として上げられることは、まず1つには、子どもに対し挨拶の仕方や玄関口での履物の整理など、礼儀作法が身につくような指導が行き届いております。

2つ目は、交流会などでは、多くの構成員や

地域の方、招待者などとの世代を超えた交流の機会を通して地域の結束力が向上し、そのことが活力ある日常生活につながっております。

そして3つ目は、郷土芸能を観光と絡めて活用・PRしていけば、逐次交流人口の拡大を促し、地域経済の振興と活性化につながるものと思われまます。

その一方で、現実には大きな課題に直面し、存続危機に置かれているのも事実でないでしょうか。それは何かと申しますと、少子高齢化と人口減少により芸能活動の保存・伝承が難しくなっていることに加えまして、コロナ感染症の影響で祭りやイベントなどの出番が極端に少なくなってきております。このことによって、謝礼や門掛けなどお花の収入が減ってしまい、活動に大きな影響をもたらしているようです。

そこで市長への御提言ですが、郷土芸能の健全な育成と伝承のために活動資金のさらなる支援措置と、伝承文化存続に着目したイベント開催などの場の提供が必要であると思っております。市長の御見解、伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 本当にそういう機会が失われてきていたということは私もそう思います。

遠野市は強いですよ、何をやるにも、郷土芸能があります。これはもう市民の魂を鼓舞するものだし、私たちのアイデンティティー、そう言えるものです。私、各国の被災地に行きましたが、全てそういうところで魂を鼓舞して人が復興してくることを見ました。

そして、観光についても、例えばSL銀河、到着します。必ず遠野の郷土芸能の皆さんにおもてなしをしていただいている。数々のイベントあります。徐々に徐々にイベントは出てきました。そこでも必ず活躍していただける。

また、練習という形で遠野にお泊まりいただいたお客さんに、その練習風景を見せるとか、そういうこともしていただいているし、参加する参加型の郷土芸能、これも実践されています。

私は、議員おっしゃるとおり、しっかりその重要な宝、これを継続できるようにすべきと考えています。

ただ、やり方も考えるべきではないかと思えます。それぞれの団体の方々にも話をし、意見交換をしなければいけないと思うんですが、常に何らかの営みを続けられるような自主的な運営、これを観光相まって考えてみてはどうかと思います。そこにそれを持続的にやれるような形をしていくために、プランをつくれなかなと思っています。今回、そのチャンスはあると考えています。

コロナ禍において、その活動が本当に大変な状況になっている。将来につなげなければいけない。遠野の観光にも寄与するものだということからすると、新たな視点で郷土芸能の保存・伝承をしていく、その機会をつくれるのではないかと私は思っています。提案をしていきたいと思えます。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） イベント開催に関わる市長の思いは理解できました。

肝心の活動資金面のさらなる支援措置についてはどのようにお考えでしょうか、御答弁ありませんでしたので、再度お願いします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 私が申し上げているのは、単純に現状で活動支援金ですというような形、これはありだと思いますが、そうではなくて、例えばさらに一歩進んで集まって、これを例えば、遠野にはそういう場所があります、立派な場所が、そこで定期的に観光客をもてなすためにこういう事業を自主的にやるんだと、そのために順番を決めて運営を形を決めてやっていくと、これ事業としてやっていくというような形も取れるのではないかと、単純に、単純にと言ったら失礼だと思いますが、はい、これ助成金ですよというやり方、これはもう一つ先に進むことを考えた上でやれること、また、申し

上げれば、令和4年度の2団体の申請を受けて、備品整備の補助、これを予定しております。

また、国や民間団体が実施する助成事業、これらの申請もお手伝いをさせていただいています。

これらのほかに、今度は文化庁が観光と文化ということテーマに、観光と文化による地域づくりということ掲げて文化庁も動き出しておりますので、その辺のアンテナを高くして見えています。つなげるものはどんどんつなぎたいと。

ただし、せっかくですから、この大変なときをチャンスとして考えて、もう一度自主取組、団体でみんな協力しておもてなしとか、そういう場をつくったり、交代で運営をしたりとか、そういうことも考えられるのではないかと。そこには当然対価が出てくるわけですから、そういうことも考えております。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） ただいまの御答弁は、郷土芸能関係者にとりましては、より一層やる気を起こさせるような答弁内容であったんじゃないかなというふうに思います。

市長には、ぜひ、ぜひ郷土芸能団体の悩みあるいは課題について、自ら御確認いただいて、適切な支援策を講じていただきたいということを申し上げて、答弁は求めませんので、次に進みます。

遠野郷しし踊りの伝承活動について伺います。この質問からは、教育長にお答え願います。

現在、市内には17団体のしし踊り保存会が存在しております。その連合体として、遠野郷しし踊り保存会連絡協議会があるようです。

この存在感と御活躍は、春のさくらまつりや秋の遠野まつりなどで御存じのとおりですが、特にも、遠野駅前通りで約700名が集結して演舞する「遠野郷しし踊りの大群舞」は、血沸き肉踊る躍動感があり、誰もが圧倒されます。

遠野郷しし踊りの由来について、保存会役員の方からの御説明では、しし踊りが奉納や披露

され始めたのは、中世・阿曾沼公時代だと伝わっているそうです。

その特徴は豊年祭りと神楽の山の神舞の要素が取り入れられているそうです。そして、獅子をかぶって踊ることにより長寿を祈り、五穀豊穡を願い、悪魔や悪霊の追放を乞うという信仰行事に伴って伝承されたということでもあります。

また、遠野物語の119話にも登場する歴史ある芸能なそうです。これ以外にも様々なことが語り継がれているようですが、時間の都合から省略させていただきます。

この遠野郷しし踊りについてですが、保存会連絡協議会では、国の重要無形民俗文化財への指定を強く望んでいるところでもあります。

参考までに、国指定になるとどのようなメリットが得られるのか確認しましたところ、1つには、市内外からの関心と人気の高まりとともに、遠野市の知名度も上がり観光客の入り込み数の増加が期待されます。

2つ目は、人気と期待の高まりが各保存会の士気高揚につながり、伝承活動の励みになります。

3つ目は、伝承者の養成や用具の修理・新調などに係る事業経費について、2分の1の国補助が受けられます。

以上から、遠野郷しし踊りを1つの連合体として国の重要無形民俗文化財の指定を受ける取組が必要であると考えますが、教育長の御所見、伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 佐々木教育長。

なお、感染予防のため教育長はマスク着用のまま答弁いたします。御了承願います。

〔教育長佐々木一人君登壇〕

○教育長（佐々木一人君） それでは、お答えをいたします。

遠野郷のしし踊りは、遠野物語の序文に早池峰しし踊り、張山しし踊りが、遠野物語119話にはしし踊りの唄がそれぞれ紹介されるなど、遠野を代表する郷土芸能の一つであります。

遠野郷のしし踊りは17団体あり、うち国が選択する文化財1団体、県が5団体、市が7団体

それぞれ指定を受けております。

また、13団体が、遠野市独自の文化遺産認定制度「遠野遺産」としても認定され、それぞれの地域で保存・伝承がされております。

国指定重要無形民俗文化財ですけれども、文部科学大臣が指定するものであり、無形の民俗文化財のうち国の歴史や文化を知る上で特に重要なものが重要無形民俗文化財というふうになります。

議員が先ほど述べましたとおり、遠野郷のしし踊りが国指定とされた場合、関心や知名度の高まりから、地域振興や観光振興などにもつながることが期待されます。

指定されるに当たってですけれども、その文化財の芸術的価値を見いだすことが不可欠というふうになります。詳細な調査を実施して価値を明らかにし、その価値を国に認めてもらう必要があります。申請によって指定されるものとは限らないということになります。

遠野郷のしし踊りとして学術的な価値を見いだすには膨大な調査が必要となります。想定される調査として、写真・映像の記録、各しし踊りの来歴、楽譜などの学術調査のほか、国指定された無形民俗文化財の全国事例、それらに係る費用、調査期間など準備に係る調査などがあります。また、大学教授など郷土芸能に関する有識者を探して依頼する必要もございます。

一例として、本市の友好都市である宮崎県の西米良村では、複数の神楽団体を一括で指定されることを目指して詳細な調査研究が進められております。平成25年度に調査する内容の検討が始まり、令和元年度には学術調査報告書としてまとめられ、検討から11年後の令和5年度の国指定を目指しているということになります。

今後も遠野郷のしし踊りを継承する活動を支援するとともに、指定された無形民俗文化財の全国事例の調査を進めてまいりたいというふうに思っております。今後とも、しし踊りのほうを支援していきたいというふうに考えております。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） 私、ちょっとうまく理解できませんでしたので、再度確認させていただきます。

私のちょっと聞き違いかと思いますが、今御答弁の中にありましたように、国指定を受けるまでにはたくさんの紆余曲折があり難題がある、これは私も理解できます。その上に立って、遠野市としてこの指定を頂くために前向きになって、しし踊りの団体の方とも一緒になってこのことに取り組んでいくのかどうか、そのことについてもう一度御答弁願います。

○議長（浅沼幸雄君） 佐々木教育長。

〔教育長佐々木一人君登壇〕

○教育長（佐々木一人君） 文化課のほうとも相談しながら、前向きに取り組んでいきたいなというふうに思っておりますが、調査に至るまでに時間がかかるということで少し検討の時間が必要かというふうに思っております。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） はい、大変前向きな御答弁を頂きました。

実はこの国指定は、しし踊り関係者にとりましては、長年の夢であり悲願であったようですので、今の教育長の御答弁、大変喜んでいただけたと思います。

したがって、この国指定を成功させるためには、やっぱり大変失礼ですが、教育長御自身の実践力に大きく関わってくると思うんですよ。ですから、その件に関わる教育長の御決意ですか、この辺を伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 佐々木教育長。

〔教育長佐々木一人君登壇〕

○教育長（佐々木一人君） 私も山口さんさ踊りの保存会の一員として活動しております。郷土芸能については、今後とも遠野の宝として保存・継承していかなければならないものだというふうに認識しております。一生懸命微力ながら頑張りたいなというふうに思っております。

○議長（浅沼幸雄君） 17番佐々木大三郎君。

〔17番佐々木大三郎君登壇〕

○17番（佐々木大三郎君） 以上で終わります。

○議長（浅沼幸雄君） 10分間休憩いたします。

午後2時04分 休憩

午後2時14分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次に進みます。

6番小林立栄君。

〔6番小林立栄君登壇〕

○6番（小林立栄君） 公明党の小林立栄でございます。通告に従いまして、一括で質問してまいります。

新型コロナウイルス感染症の脅威、原油・物価高騰から市民の命と生活を守るとともに、デジタル化・グリーン化・地方への分散化の流れの中、コロナ禍以前からの課題をも克服した誰一人取り残さない持続可能な未来を目指して、今こそ反転攻勢していくときであります。

これまでも質問してきたテーマではありますが、今回は、守りから攻めに転じるべき、反転攻勢していくべきという視点で議論を深めることができたらと考え、質問してまいります。

原油・物価高騰対策について質問いたします。

3月定例会では、宿泊・飲食・小売・理容美容・クリーニング・交通事業者等への支援の必要性について、市長から「状況を見ながら幅広い支援に対応しなければならない」旨の御答弁をいただきました。それから今日まで、物価高がより深刻になってきております。

農業・商工業の各産業においても、資材不足、燃料・資材の高騰の影響が重くのしかかっております。貯蓄を取り崩す、利益を減らすなど、身を削りながらやりくりをしているのが実情であり、生活者・事業者とも増える負担に体力が奪われています。

まずは体力を回復させながら、その上で先行き不安を払拭し、安心感を広げ、やる気を引き出すことが我々の責任であります。

具体的には、新型コロナウイルス対策事業と

合わせ、原油・物価高騰の負担軽減による生活や事業活動への支援、環境に配慮した設備の導入や更新への支援、事業の転換や新商品開発など新しいことへの挑戦への支援、これらをバランス良く実施していくことが重要であります。

そこで4点質問いたします。

質問1、本市の原油・物価高騰対策について、どのような方針で対策を組まれたのか、改めて市長のお考えをお伺いいたします。

その上で具体的に、質問2、市民・事業者の電気・ガス・上下水道料金の負担軽減に取り組む必要があると考えますが、いかがお考えでしょうか。

質問3、国や県の支援に上乗せして、交通事業者・運送業への支援の充実を図るべきと考えます。市としてどのように取り組むお考えなのか、お伺いをいたします。

質問4、価格転嫁が難しいと言われている介護・障がい福祉事業者への経済的な支援強化が必要と考えますが、いかがお考えでしょうか。

次に、宴会・仕出しへの支援について質問いたします。

3月定例会において、市長より「経済対策については、タイミングを計りながら消費喚起に取り組んでいく」旨の答弁をいただいております。消費喚起策の速やかで着実な推進と合わせ、過剰すぎる自粛意識、これを感染症対策を講じながら経済・社会活動に積極的に取り組んでいこう、活動の自由度を高めていこうという方向へ意識を変えていくインセンティブ、要は刺激が今こそ必要であります。

過剰すぎる自粛意識を変えていく上で、人と人がお互いに親睦を深める機会を増やすことが重要ではないでしょうか。そのような観点から、宴会・仕出しが大きな役割を担っていると私は考えております。

そこで伺いをいたします。

感染症対策を講じながら冠婚葬祭や宴会を開催しやすいように、また、仕出し、お弁当等を積極的に利用しやすいように、例えば、利用に応じて現金や商品券がキャッシュバックされる

など、宴会・仕出しの利用促進となる喚起策に取り組むべきと考えます。御所見をお伺いいたします。

次に、観光振興について伺います。

インバウンドが再開されました。限定的な再開ではありますが、円安の今、インバウンド需要の大幅な回復が現実的に見込まれています。インバウンドの恩恵を最大限に受けるため、速やかに積極的に準備を進めるべきと考えます。

本市でもインバウンド再開に向け、感染症対策を徹底した受け入れ態勢の検討と準備、そして、インバウンド対応力の強化に取り組む必要があると考えますが、御見解をお伺いいたします。

続いて、脱炭素・循環型ライフスタイルへの転換について、お伺いをいたします。

質問の前に、先ほど自分ごととして感じたのですが、議員用の飲み物もペットボトルを使用しております。やっぱりこういったところも見直して行かなきゃいけないなど、お恥ずかしながら、自分でも感じながら、今、この席に立っております。そうやって気づいているいろいろ取り組んでいくということが本当に大事なのではないかと感じております。

そこで、市長にお伺いをいたします。

感染症の蔓延は、環境問題と関係が深いと言われております。災害の激甚化、異常気象も同様でございます。今こそ脱炭素・循環型ライフスタイルへの転換を加速度的に推進することが求められています。多くの市民の皆様、事業者の皆様に協力いただき、連携・協働しながら取組を進めていくことが重要であります。

環境対策について、本市の積極的な広報活動、事業の着実な取組を評価しております。

その上で質問をいたしますが、もう一步踏み込んだ取り組みとして、健康ポイントのように消費者の環境配慮行動に対し、ポイントを発行してはいかがでしょうか。環境省の事業に、食とくらしの「グリーンライフ・ポイント」推進事業があります。国の事業も積極的に活用して、さらなる意識の向上、脱炭素への行動を喚起し

てはいかがでしょうか。お考えをお伺いいたします。

教育長に質問いたします。

カーボンニュートラルの達成、環境教育の充実に向けて、文部科学省は持続可能な教育環境の整備を推進しています。同趣旨は遠野市学校施設長寿命化計画でも、少エネルギー化により環境に配慮した施設整備を積極的に進める必要がありますと記載されており、施設のZEB化、要は省エネルギーでエネルギー消費量を減らしつつ、創エネルギーでエネルギーを創って、結果としてプラスマイナス0にしていくという取組ですが、そういった施設のZEB化の推進は重要となります。

昨年度、遠野西中学校の体育館のLED化に速やかに御対応をいただきました。感謝申し上げます。このような部分的なZEB化の取組も大事であります。

これまでの学校施設の長寿命化で、環境への配慮は実際にどれくらい反映されているのでしょうか。また、今後、部分的なZEB化も推進するべきと考えますが、お考えを伺います。

日常の学校生活の中で、児童生徒たちが我が事として、環境への配慮を実践していくことも需要であります。

今回は一例として、給食の牛乳について質問をいたします。

給食の牛乳を飲むためのプラスチック製ストローを、牛乳を担当している事業者と連携して紙ストローや直接飲める紙パックに変更してはどうか。身近な環境教育の実践にもなると考えます。お考えをお伺いいたします。

再び市長に移住定住の促進について、お伺いをいたします。

若者が希望を抱けない社会に未来はなく、持続可能な社会を築いていく上で、若者（現役世代）の皆様が存在と活躍は欠かせません。奨学金返還支援・家賃補助・UIJターン支援など、若者（現役世代）を積極的に支援することで、結果として、遠野市の持続可能な社会を築く上

での課題である働き手不足、少子化、人口減少、若年層の流出等の解決にもつながると考え、これまで議論し、推進をしてまいりました。

今回のコロナ禍で改めて潜在化していた課題が浮き彫りとなりました。一人親世帯の経済的な困窮・不安定な生活基盤の実態であります。

誰一人取り残さないというSDGsの理念の下、本市を含め社会全体で克服していかなければならない課題の一つであります。

市内に限らず、市内外の一人親世帯の皆様が、遠野の豊かな環境の中で働き、子育てをしながら安心して伸び伸びと生活をしていただける環境を整えられないかと考えをめぐらせております。

これまでの若者への支援を充実させつつ、一人親世帯の抱える仕事・子育て・住環境等の課題に対して、本市では、ひとり親家庭等自立促進計画というものがございます。こういった計画に基づく施策の積極的な推進と移住定住の支援策を組み合わせ、組織横断的に一人親世帯の本市への移住定住を促進してはいかがでしょうか。お考えをお伺いいたします。

次に、音楽・演劇等の公演の招致について伺います。

遠野市芸術文化協会15周年記念「とおの寄席」を鑑賞しました。市長たちも鑑賞されていたと思います。慌ただしい日常の中で、琵琶の音色に感動し、人の情けにほろりと涙し、そして大いに笑いました。久しぶりに芸能を満喫することができました。

私たち遠野市民は、郷土芸能はじめ、芸術文化活動に積極的に参加をし、表現活動に取り組んでおります。何かを表現することは大事なことであります。併せて、今回のように優れた芸術文化に触れる、感じることも必要であります。

反転攻勢する未来を開いて行くのは、あくまでも私たち人間です。人間力を高める上で芸術文化の力は欠かせません。

芸術文化を鑑賞する積極的な招致活動と鑑賞への支援、チケット代金への助成であったり、会場への臨時バス等の運行などを充実させ、ま

ずは市民センター事業の再開を含め、市民がより多くの芸術文化に触れることができるよう取り組むべきです。お考えをお伺いいたします。

続いて、大項目2点目に移ります。

市民の健康を守る取組の充実について伺ってまいります。

経済的な負担を軽減し、安心して治療・療養に取り組むことができる大切な制度が高額療養費制度であります。利用者からも感謝の声を聞いております。しかし、申請の度に必要な提出物を用意して役所窓口に行き、手続きをしなければなりません。交通手段や体力的なことなどで不安を抱えている方などから、手続きの簡素化を求める声をいただいております。

令和3年3月の国民健康保険法施行規則の一部改正により、市町村の判断で手続きの簡素化ができることになりました。遠野市でも、手続きの簡素化に取り組むべきと考えますが、お考えをお伺いいたします。

次に、带状疱疹ワクチン接種について、お伺いをいたします。

带状疱疹は、水ぼうそうと同じウイルスで起こる皮膚の病気で、治るまでに3週間から1カ月、激しい痛みを伴います。年間約60万人、80歳までに約3人に1人が発症するといわれ、約2割の方に痛みが持続する後遺症が残ると言われております。

予防ワクチンもありますが、生ワクチン約7,000円、不活化ワクチン約4万円と高額で、接種を控えてしまう要因ともなっております。

市民の健康な生活を守る、経済的な負担軽減を図るという観点から、ワクチン接種費用の助成に取り組むべきと考えますが、いかがお考えでしょうか。

最後に、特別な理由による各種予防接種の再接種について、お伺いをいたします。

小児がん等で、その治療のため造血細胞移植を行った場合、これまで打ってきた定期の予防接種で獲得した免疫が低下もしくは消失し、感染症にかかりやすくなるという課題がございます。

感染症の発生予防や症状の軽減が期待される場合は、移植後の予防接種の再接種が推奨されております。しかし、その費用は保護者の自己負担、約20万円もかかるというのが実情でございます。以前、このような社会的課題があることを知り、「遠野市に同様なケースがあるのか」、「接種費用の経済的な負担軽減策を用意する必要があるのではないか」、担当課と情報や意見の交換を行ってまいりました。うれしいことでございます。先週、市のホームページで助成制度の導入が公表されました。

誰も病気になって欲しくはありません。ですが、仮にこの助成支援が必要となる場合、当事者とその御家族にとって、病に立ち向っていく上で安心と大きな希望になるということは間違いありません。

各種予防接種の再接種が必要となる場合の対応について、市民周知を兼ねて改めて本市の取組を伺います。

実は、質問しようか悩んだのですが、通告、ヒアリング後に公表していただいたこともありましたので、一応、予定どおり質問をさせていただきました。

以上、1回目の質問を終わります。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） お答えさせていただきます。

まずは、生活者・事業者ともコロナ禍及び原油価格・物価高騰により体力が奪われていると、その体力を回復させながら、やる気を引き出す、増大させる取組、これについて申し上げます。

反転攻勢、そのためには、未来につながる投資、民間の投資、事業投資、積極的な自主的投資、これが必要かと思いますが、現時点で、当市でも原油価格・物価高騰等の影響を受ける市内経済を支えるために地方創生臨時交付金をはじめ、様々な部分の交付金、補助金にトライしております。各種経済対策事業を積極的に展開しておりますので、これはたくさんありますので、詳細につきましては、このあと総務企画部

長に答弁させていただきたいと思います。これは今でよろしいですか。

○議長（浅沼幸雄君） あとで。市長が一括質問の場合は、市長が全部答弁して、そのあとに部長答弁して、そのあとに教育長の答弁になります。

○市長（多田一彦君） 分かりました。これでもよろしいですね。続きまして、感染症対策を講じて宴会の推進、宴会ができない場合の仕出しの推進など喚起策が必要ではないかと、そのとおり賛成でございます。また、この場を借りまして、市民の安全安心を守る、これと、命を守る、そして、暮らしを守るということは、時には相反することもあります。現状ではしっかりと経済活動も実施させていただきたいと思いません。役所内でもそのように呼びかけております。

また、様々なイベントも開催されておりますので、積極的にこれからも開催して、そのような経済活動も同時に行なうようにお願いしたいと思いません。

当市では、同時にありがとうございます応援割引事業というものを実施していただくことで、お客様への割引や補助を支給する予定であります。また、抽選による景品等も用意をしていく予定です。

飲食店については、本当に燃料費の高騰とか様々あります。この対策と合わせて消費喚起、これを図っていきます。

インバウンドの感染対策を徹底した受け入れ体制の整備についてということで、昨今、テレビでも出ております。日本が外国人の観光客受け入れを6月10日から開始しましたと。ところが、様々なツアーは全て規制の下であるというような状態で、海外からは、言ってみればあまり好意的には受け取られていないと。とはいえ、通常活動する上で、ビジネスとか、そういう場合には自由に動いている人たちもいます。したがって、当市では、しっかり通常どおり、それぞれの方が予防を徹底して生活していただくということを申し上げたいと思いません。

また、インバウンドということですから、外国からということが多分想定されていると思

ますが、これについては、やっぱりこれからの時代、グローバル、多言語のホームページやパンフレット、これをもう少し徹底して作っていく必要があると思えますし、企業さんに向けても資料を用意していく必要があるかと思えます。翻訳機もかなり今はいいものが出ておりますけれども、基本的にはそういうところを準備すると同時に、グローバルなシティーということからすると、例えば外国語のサインボード、いろんな案内に関してもないですよ。これを少しずつ増やしていくということ、整備していく必要があると思えますので、これも検討を進めております。

もう一つは、風土を生かしたインバウンドというと、先ほどお話もありました郷土芸能もあります。それと、アウトドアの活動もあります。これらのメニュー、これを充実させていかなければいけないと思えます。それによって、くせになって遠野に来るという人が増えるようにしたいなと思えます。

同時に、もう一つ言えることは、インバウンドというのは、一方的なインバウンドだけではあり得ないということです。したがって、当市も積極的にアウトバウンドをしていかなければ相互の交流にはなっていけない。アウトバウンドにも力を入れるべきというふうに思えます。

さっき、もう一つ、脱炭素・循環型ライフスタイルへの転換について、グリーンライフ・ポイント推進事業を活用してはという御提案がありました。これは本当にいい提案だと思います。これは様々な環境のことについてポイントを加算できていくと。それが、今あるあるものに対してプラスしながらできていくというところが利点かなというふうに思いますが、これについて、もう少し情報、それと、メニューの具体化が必要かなと思っています。これは、流れからいって還元されていくものだと思いますので、この辺、当市も相談しながら取り組んでいきたいと思えます。

カーボンニュートラルの実現、2030年の排出量を2013年度比で46%削減するという目標があ

ります。これについて、しっかりと遠野市も取り組んでいかなければなりません。

いずれにしても、ゼロカーボンアクション30の項目に、食の地産地消や経済循環などを加えた衣・食・住・循環・移動の5分野での取り組みとしており、様々な事例から効果ができそうだと、その動機づけになるのではないかと期待していますので、積極的に進んでいきたいと思っています。

それから、一人親世帯の移住定住の促進について。

これは、いい御提案をいただいたと思います。私も情報収集をしたいと思っていただいたことの1つです。一人親世帯を移住定住させるために必要なこと、これは、例えば、衣食住、業がないといけません。それで、ここで住めるなどという心がないといけません。それで、はじめてここで自立的に生活できる。

遠野市がどのようにしてその環境を整えることができるか。住宅はいろんな方法でできそうな気はします。仕事も、今、できそうです。子育てのこと、教育のこと、これらのところを、以前の御質問にもあったんですけども、子育てをするなら遠野というところを強化していかないと、それは難しいことになりますので、総合的に進めていきたいなと思います。

これは非常にいい企画だと思います。積極的に相談しながら取り組んでいきたいと思っています。

それから、音楽・演劇等の公演の招致についてということです。

遠野は、今回、残念ながら、遠野物語ファンタジーが中止になりました。非常に残念だったと思います。これについての市民の方々の取組というのは、本当にすばらしいものと常々思っています。私も役所に入所当時、大道具係、小道具係をやりました。そして、これがずっと続いているということが、何といたってもすばらしいことです。

この間も、それこそ議員の担当する音楽祭もありました。それも聞かせていただきましたし、一昨日もございました。まだまだたくさんの楽

しいこと、芸術、市民の皆様に触れていただきたいと思います。これらについても積極的に取り組んでいくべきかと思っています。

あとは、国民健康保険高額療養費の手続きについてでございました。

これは、県の事務を基にしつつ、遠野市の市民の負担を軽減させるために簡略化に努めている最中でございます。そして、令和3年3月、国民健康保険法施行規則の改正によって申請手続きを初回の口座のみとする対応が可能となったことから、県の判断によって事務処理の標準の改定を進めております。

さらに、これについては、先行している市町村もありますので、情報収集して、遠野市も積極的に進めていきたいと思っています。

次に、带状疱疹ワクチン接種への助成について。

これについては、少々時間が必要かと思っています。医療的な因果関係、その他の判断、また調査データ、これらに基づいて、さらに検討が必要だと考えています。

県では、これはまだやっているところはないです。

それから、造血幹細胞移植を受けた20歳未満の方のワクチン再接種費用に対する助成の必要性については、これはもう、先日、令和4年6月1日に制定、遠野市特別の理由によるワクチン再接種費用助成金交付要綱というものを、先日、制定させていただきました。これに基づいて進めていきたいと思いますが、これは県の中でも早いほうかなと思っています。

いずれにしても、遠野市民全体の免疫水準を向上させていかなければならないと考えています。

それでは、ここで総務企画部長から答弁をさせていただきます。

○議長（浅沼幸雄君） 総務企画部長。

○総務企画部長（鈴木英呂君） 命により、答弁いたします。

経済対策事業として、当初予算では、7事業、約1億640万円を既に計上しております。本定

例会でお諮りする第1号補正予算においては、3事業、約5,413万円を計上し、さらに、第2号補正予算として、12事業、約2億2,225万円を追加提案いたします。

事業の策定に当たっては、生活困窮者や危機的な状況にある事業者への緊急的な支援が必要であると捉える一方で、いわゆるばらまきのような効果が一時的な事業とならないよう配慮いたしました。

特に、事業者支援についてはコロナ禍による社会変化に対応し、ウィズコロナ、ポストコロナの新たな需要を取り込むことができるよう、事業者による新規取組や未来への投資を積極的に支援することを念頭に事業を策定いたしました。

本定例会においてお諮りする経済対策事業、新規事業の一部を紹介いたします。

まず、商工労働関連については、事業転換や経営革新等の事業再構築を支援する商工業再生・再構築補助金、市内農産物直売所を支援するみなし法人持続化補助金など、3事業を展開いたします。

運輸・交通分野については、コロナ禍により利用者が減少していることに加え、燃料高騰がさらに追い打ちをかけている状況にあることから、公共交通事業者に燃料高騰分の一部を支援する公共交通事業者支援事業費補助金を計上しました。これは、県が実施する支援事業に合わせ、市独自の追加支援を行うものです。

なお、貨物自動車運送事業者を対象とした支援策については、今般の補正予算では計上しておりませんが、今後の県の支援策の実施状況や燃料価格の推移等を注視し、必要に応じて検討を行ってまいります。

飲食店等への支援については、調理等による光熱費の負担が増していることから、当初予算に計上済みの商い元気回復事業費補助金の運用を通して、その支援に当たります。

次に、観光関連については、観光需要が回復することを見据え、関東圏における市内の物産等の販売促進や新たな観光需要取り込みを行う

ための事業を追加いたします。

次に、農林畜産関連については、高騰する肥料代の一部を支援する飼料用牧草生産支援補助金、ポストコロナを見据えたスマート農業技術の導入を支援するスマート農業技術導入支援事業費補助金、特産品の生産に係る燃料費の一部を支援する遠野特産品安定生産支援事業費補助金、高騰する生産資材等の購入経費を支援する売れる農畜産物生産支援事業費補助金など、8事業を展開いたします。

御意見のありました福祉施設等への支援については、原油価格・物価高騰に対する支援策は今般の補正予算では計上しておりませんが、今後の価格推移等に注視し、国・県等の支援策の情報収集に努め、必要に応じて検討を行ってまいります。まずは、感染防止の観点から、クラスター発生時には保健所をはじめとする関係機関と連携した支援に努めてまいります。

そのほか生活者支援として、低所得の子育て世帯等を支援する県の給付金事業に合わせ、市独自で給付対象を拡充する子育て世帯臨時特別支援金事業のほか、市外の大学生や短大、専門学校に在籍する学生に食料品等の提供を行う事業も新たに展開いたします。

これらにとどまらず今後の状況を注視し、市民ニーズの把握に努め、タイミングを逸しない対策を講じてまいります。

○議長（浅沼幸雄君） 佐々木教育長。

〔教育長佐々木一人君登壇〕

○教育長（佐々木一人君） それでは、学校施設における脱炭素・循環型ライフスタイルへの転換についてお答えいたします。

学校施設においてもカーボンニュートラルの実現に向けたZEB化の整備が求められており、その必要性は十分認識しております。

学校施設の長寿命化は、省エネルギー化、設備等の維持管理の容易性の確保などが求められており、本市においては、照明器具のLED化や複層ガラスの採用などによる省エネルギー化を進めているところであります。

ハード面での省エネルギー化のみならず、エ

アコン等の適切な使用によるソフト面でのさらなる省エネルギー化を推進するとともに、太陽光発電等の創エネルギーの導入による学校施設のZEB化に向けた検討を進めていく必要があると考えております。

学校施設においては、蛍光灯が切れてしまった場合、蛍光管を交換しても点灯しない場合などは、順次LEDに交換するなどの修繕対応を行っており、今後も省エネルギー化を意識した修繕対応を行ってまいりたいと考えております。

最後の質問の学校給食の牛乳ストローの件ですけれども、一つひとつは小さいのですが、学校規模になると大きな数量になるということで、CO₂削減のため、ストローがなくても飲みやすい紙パックへ切り替える自治体があることは承知しているところであります。

岩手県牛乳普及協会や乳業メーカーでも環境問題を考えています。ストローレスの紙パックへの移行について、機械の交換が必要であったり、紙ストローでは差し込むことができなかつたりと対応が難しいと聞いております。

学校給食用牛乳のプラスチック削減については、今後とも業者へ働きかけを行ってまいりたいというふうに考えております。

○議長（浅沼幸雄君） 6番小林立栄君。

〔6番小林立栄君登壇〕

○6番（小林立栄君） ありがとうございます。

原油高・物価高対策につきましても様々な事業を組まれて、今後の補正予算については、予算委員会等でも細かいところは審議させていただきたいと思いますが、御答弁の中で、ただのばらまきとにならないように、これは大変大事な視点だとは思いますが。当然、限られた財源の中での取り組みにもなりますので。

ただ、どうも他の議員の子育て支援、児童手当の上乗せの件についてもですが、これまでのコロナ対策についての対応についてもですが、市民や事業者に対して、これはしっかり直接的にしっかり応援しなきゃいけないときはしっかり応援をしていくべきだと思います。そういっ

た意味では、限られた財源の中ではありますが、この辺のバランスというのをもうちょっと柔軟に考えていく必要もあるのではないかと考えております。

ちょっとこの辺は細かくなってしまいますので、予算委員会等で引き続きやっていければいいなと考えております。

喚起策の中でも、特に今回、仕出し、あと、宴会への支援をテーマとして挙げたのは、やはりそのダメージが大きいからです。ありがとうございます応援割引事業、本当に大変おもしろい事業で私も利用させていただきましたし、そういったことで、飲食店の皆さんの大きな希望になったと思います。

ただ、それが偏りもあるという状況もございますので、そういった意味では、幅広い、様々な御苦労されている事業者さんへの支援に届くような運用の仕方をもう少しいろいろ工夫していただけたらと思います。これも予算に絡むところですので、予算委員会等でもやっていきたいと思っております。

一人親世帯の方々にぜひ遠野に移住をしていただいて、ゆとりある生活を送っていただきたいなという思いがあって、市長からも本当に前向きな御答弁をいただきました。

ただ、現状として、決して遠野での暮らしの環境、一人親世帯の方が暮らしていく上で、いい環境が整っているかということ、やはり現状としてはまだまだ取り組まなければいけないことは多々あると思っております。そういった意味で、働き方など男女共同参画の推進も併せて取組を進めていただきたいと思います。

教育長に対しましては、給食での取り組み、ぜひ今後も事業者さんに働きかけをしていただくということでございましたが、そのほかにも食品ロスを減らすとか、残渣を、キエーロとか、そういったものをうまく使って環境対策もしながら、身近なもので学んでいけるチャンスでもあると思っております。そういったところで取組を進めていただきたいと思います。

ちょっと順番が前後してしまいましたが、芸

術文化の推進のところにつきましても、これはコロナ禍の影響もあったと思いますが、市民センター事業としての取組というのがストップしていると思います。そういったところもしっかり開催を、事業の再開を図っていただいて、少しでも多く市民の皆さんが芸術文化に触れる、そういった機会を増やしていただきたいと思っております。

大項目の2つ目、市民の健康を守る取組については、御答弁にありましたとおり、お一人お一人に寄り添った取り組みの継続をしていただきたいと思っております。

带状疱疹ワクチンについても、国のほうでも検討を進めているそうでございますので、近々、そういった国・県と連携して取組が形になってくるのではないかと感じておりますので、引き続き調査検討をしていただきたいと思っております。

ということで、再質問に入ります。

宴会・仕出し支援に関連して再質問させていただきます。先ほど考えは述べさせていただきましたので、それを踏まえての質問となります。

今こそアフターコロナの新しい冠婚葬祭、宴会の在り方というものを創出、作っていかなくちゃいけないと思います。コロナ禍の中で、お一人お一人の考え方や感じ方に変化が生じています。その一例として、結婚式の在り方も大きく変化をしております。身近で大切な家族や友人など、少人数単位での結婚式や披露宴の開催、美しい自然や建築物を背景としたフォトウェディングに人気が高まっております。まさに遠野がニーズに十分お応えできる地域資源を備えているのではないかなと感じているところです。

市内外の結婚を考えている方々に、フォトウェディングや披露宴の会場として遠野市を選んでいただけるように、事業者と連携して、市内でのフォトウェディングや披露宴の利用促進となる喚起策に取り組んではいかがでしょうか。まず1点目、お考えをお伺いいたします。

次に、インバウンドに関連して質問いたします。

インバウンドに限らず、これから遠野市には、

恐らく外国人労働者、実習生の方々も増えてくると思います。誘致企業関係のお客様であったり、そういった従業員の方で外国の方というのも増えてくるのではないかと思いますし、県内に目を向ければ、八幡平市のイギリス名門私立校の姉妹校、ここが開校いたしますので、それに伴う来訪者など、市内への外国人来訪者の増加が見込まれます。

外国人来訪者への対応、言葉や文化・風習の違いを認め合う、理解し合う、多様性を高めていく取組、これが今後ますます重要になると考えます。そういった取組も合わせてしっかり推進をしていく必要があると考えますが、市長のお考えをお伺いいたします。

脱炭素・循環型ライフスタイルに関連して質問をいたします。

議会として今定例会からいろいろ画像とか、資料を映像として表示しながら質問できるようになりました。ちょっと私も言い出しの1人だったので、まずはやってみようということで、本来、ちょっとプレゼンの資料のような詳細な資料をつくれればよかったです、なかなか難しかったので、まずは、これからする質問のイメージを伝えられるように、ちょっと写真を御用意しましたので、ぜひ見ていただきたいと思っております。

〔※ディスプレイ使用（写真投影）開始〕

○6番（小林立栄君） すみません。本来はもっと大きくセッティングしていたんですが、今、小松議員の助けもありましてリカバリーいたしました。

ちょっとこういった意味で、すみません、どたばたしてしまいましたが説明させていただきます。

脱炭素・循環型ライフスタイルに関連しての質問でございます。

具体例の1つとして、冷水器を公共施設などに給水スポットとして設置をして活用する取組がございます。

左側のほう、これは図書館です。市立図書館にある冷水器、一般的な冷水器です。私もよく

利用しております。

これはプールです。市民プール。体育館にある冷水器。ちょっとこちらはコロナ対策もあって、今はちょっと使用を控えているようでございます。これも一般的な冷水器でございます。

これは冷水器ではないんですけど、運動公園の野外の水飲み場になっております。

これが一般的な冷水器だったり、水飲み場だと思いますが、次、こちらを御覧ください。

これは、大津市の琵琶湖の側にありますみさき公園に設置をされている給水スポットとなっております。左側のほうが冷水器なんですけど、ちょっとアップするとこんな感じで、マイボトルに給水できるタイプとなっております。公園という位置づけもありますので、よく自転車とか、マラソンしている人、散歩している人がマイボトルにここで補給をします。あと、入れる場所を低くしているそうです。要は子どもであったり、お年寄りであったり、車椅子の方も利用できるように。

ちょっと本市の冷水器、古いタイプを大事に使っておりますので、車椅子での利用とか、いろいろ制限もあるのかと思っております。

今回は外での例を提示しましたが、ありがとうございました。

〔※ディスプレイ使用（写真投影）終了〕

（※投影した写真は、付録（129ページ）に掲載）

○6番（小林立栄君） 今度は、こういった冷水器を、要は体育館であったり、いろんな公共施設、市内の建物の中に設置をしていくという自治体も増えてきております。

大津市の例を紹介いたしますが、大津市では、水道水の資源である琵琶湖のプラスチックゴミを削減するために、世界に1つだけのマイボトル制作、みんなで自分だけのマイボトルを作っていこうとか、あと、水の大切さが分かる動画制作やイベントを開催したり、あと、当然、今のような給水スポットを市内何箇所かに整備をしていく。これら取組を通して、マイボトルを持ち歩くライフスタイルの推進というのに取り組んでおります。同様の取組をする自治体も

各地に増えてまいりました。

取組のメリットとしては、マイボトルの普及・活用、これは環境対策になります。あともう一つ、熱中症対策にもなるそうです。どうしても水道水だとあったかい水になってしまったりとか、そういった意味では、冷たいお水をちゃんと提供できる。そして、僕はこの3つ目がポイントだと思うんですけど、おいしい水の周知になるということだそうです。水道事業の理解促進の面があるそうでございます。

実は、この大津市も設置をしているのは大津市企業局という部署で、水道を担当している部署だそうです。本市でも水道事業は今後大きな議論が必要なテーマでございます。住民の意識啓発という意味では、やはりこういった給水スポットの活用というの、ひとつ大事な取組ではないかと考えております。

公共施設へのマイボトル用冷水器の設置、商店街や事業者との連携で給水スポットの展開を図ってはいかががでしょうか。お考えを伺います。

以上、再質問を終わります。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） まず、フォトウェディングなどの披露宴とか、そういう利用促進策を検討してはということでした。非常にそういう工夫はいいと思います。これからはそういう時代かと思えます。

さらに、これは民間事業者にいろいろ積極的にやっていただくということが重要だと思うんですけども、そういう提案も積極的にいただきたい。要するに、全て行政からの投げかけでは積極性に欠けると。ですから、様々なところで積極的にやっていただきたい。

これは、それこそ個人ではなく事業者への、例えば、やれば支援になるわけです。バランスを取っていくとすれば、コロナ対策において、本当に中小企業とか事業者、または団体に支援ができたかというふうに考えると、私は足りていないと。今、民間事業者に元気をつけていただく。前に向かって進んでいただく。例えば農

業者の方々、グループにして、例えばコンソーシアムでもいいです。作って前に進むぞと、こういう投資をしていくぞと。サービス業の方でもいいです。そういうところに何らかの形でチャレンジする支援ができなければ、地域経済は回りません。ですから、岩手県も上乘せをしてとか、そういう話はしてきます。でも、これは順番とか、バランスから考えると、私は現在はそこに一度手を入れるべきというふうに考えています。そして、なおかつ全てが市役所誘導型ではなくて、民間事業者さんの、またはグループさんの提案型、これに持っていかなければ活気づかないというふうに思っています。

今回の企画の中では、こういう形、様々な形でチャレンジできるというところを目指しているので、ぜひ相談をしていただいて、お互いに提案をし合っていかなければいけないんじゃないかと。今だからできる事業促進支援、これを進めたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

それと、観光だけではない外国人、外構人労働者の方もいらっしゃるだろうということでした。

まさにそのとおりです。ですけども、勘違いしている日本人の方が多いと私は最近思っています。なぜかと言うと、外国人労働者というと、ほぼASEANの国から、諸国からいらっしゃると。これ、ほとんどの人が外国人の人が日本に来て働きたいんだろうというふうに考えるわけです。ところが、来なくなりますよと。どんどん個人のGDPは上がっていきます。現に、今、岩手県で、しばらく岩手県にいた外国人の人たちは、帰るといふ方向に動いています。特にベトナムやインドネシア、これは国のGDPが上がってきていますので、日本に来なくてもいいというふうに考える人も増えているのが事実です。そして、さらに自由化になっていくと、岩手に来ないです。遠野に来ない、岩手に来ない、関東近辺に集中してしまう。こういうことが絶対に起きていきます。これは、現に起きています。国は特定技能という制度を始めました

けども、この人たちが岩手に来て特定技能の資格を取って働くんですが、これが関東近辺に転職ができるものだから、1,000円でも高いところに移ってしまうという現象が、今、かなり問題になっています。

こういう事態を想定すると、何をすべきかと。要するに、地域と地域、顔の見える交流をする、海外と交流する中で、遠野に親戚のようにして遠野に来れる、だから安全であったり、そして、その友人、または家族がまた来れるみたいな信頼関係のできるつき合い方をしていく中で交流をしないといけないと思います。

また、いろんな国からいらっしゃることは想定されています。同時に、様々な外国の事情に左右されることもありますので、私たちが海外に関するニュースにはしっかりと注目していかなければいけないと思います。

多文化共生、うたわれて久しいかと思いますが、グローバルな町、外国人でも安心して歩ける町、こういう町にしていかなければいけないというふうに思います。

そして、水に関して、やっぱり水は生命線ですから、私もマイボトルをもって歩いています。水だったり、コーヒーだったりを入れながら出張したりしますけれども、非常にいい考えだと思います。これは検討を要すると思います。ですから、検討をさせていただきたいと思います。

再質問は以上でしょうか。ありがとうございます。

○議長（浅沼幸雄君） 6番小林立栄君。

〔6番小林立栄君登壇〕

○6番（小林立栄君） 新しいことに私も今回チャレンジをいたしました。こうやって失敗をしながらありますが、今後もしっかり市民の皆さんと一緒にチャレンジをしていく、やる気を引き出していくというところも、もう少し背中を押してほしいなと思っている市民、事業者の方も多々いると思いますので、そういったところへの力添えになるような、やる気を引き出せるような取組を期待しております。

一人親についても、外国からの方についても、

結局のところは、誰もが自分らしく生きていける地域社会を作っていくことだと思いますので、賃金の面であったり、働き方であったり、もっと幅広い組織横断的な取組で進めていただきたいと思います。

以上、一般質問を終わります。

○議長（浅沼幸雄君） 10分間休憩いたします。

午後3時13分 休憩

午後3時23分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次に進みます。12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） 会派遠野令和会の菊池巳喜男でございます。

それでは通告に従い、一問一答で市長に大項目1点、教育長に大項目1点、合わせて2点を質問させていただきます。

今日本日、今日本日というよりも本日最後の質問になりましたので、できるだけ簡潔に質問を進めてまいりたいと思います。

質問の前に、私からも先ほど午前中、市長の答弁がありましたけども、この前の土曜日、コロナ禍で中断されていまして遠野市緑化祭里山フェスタ2022が、私の記憶では3年前、3年ぐらいの感覚で私も参加させていただきました。小学生の森林愛護少年団、それから一般の各団体等々、市長をはじめ市の幹部職員、そして職員たちも多数参加されておりました。本当に久しぶりに山で、皆さんで植林をしたというような形でございました。本当にこれは、毎年これからは続けていくものですが、ぜひコロナに負けないで頑張っていてほしいというふうに思います。

それでは、最初に本日の、市長に対しまして最初に一般質問を進めてまいります。

この前、6月1日でしたか、新聞に取り上げられましたので、既に御承知かと思えますけども、地方活性化策として国ではデジタル田園都市国家構想の基本方針を公表されました。デジ

タルを活用して活性化に取り組む自治体を財政支援するという報道がありました。

そこで、大きく4項目について質問を進めてまいりますので、積極的そしてポジティブな、どちらも同じような意味ですが、答弁を期待したいところでございます。

それでは、最初に1点といたしまして、国では地域活性化策として先ほど述べましたとおり、デジタル田園都市国家構想の基本方針を公表いたしましたので、その中で令和9年度末までに高速インターネット通信ができる、光ファイバー回線をおおむね100%の世帯に普及していくということで、令和8年度末までにデジタルに詳しい人材を230万人ほど育成もしたい。これらデジタル基盤を活用して、日本の各地の生活の利便性を向上させ、全国どこでも快適に暮らせる社会を実現していくと公表をいたしました。

このデジタル活用による地域活性化は、前の政権でも地方創生として進められてきており、継続的な政策に見受けられます。現在の岸田総理は会合でこの実現に向け政府一丸となって推進し、目に見える成果を上げていくと述べて、報道されております。

岩手の県民計画でも、デジタル化の推進として「行政のDX推進」「社会・暮らしのDX推進」「産業のDX推進」「DXを支える基盤整備の促進」という4項目が計画されているようでございます。

既に、皆さん御存じのとおりDXとはデジタルトランスフォーメーションの略でありまして、DXについて何となく聞くとIT化のことではないのか、AIを導入することではないのかなど、疑問に思っている人もいることと思います。IT化による変化は量的変化、DXによる変化は支出的変化というようでございます。

今回、国では生活の利便性に高い地域づくりを自治体を中心となって進め、具体的な取組を記した総合戦略の作成を要望していくと発表しております。遠野市としては、このことをどのように取り組んでいこうとしているのかを伺います。

この総合戦略の想定といたしましては、遠隔医療・オンラインでの母子健康相談・農業のデジタル作業化・交通対策としての自動運転など交通システムなどを想定しているようでございます。

市長のフレッシュなポジティブな意見を、市民にアピールしながら、ハッピーで夢を実現できるような形として遠野市の構想を国にアピールし、特徴ある田園都市に持っていただければ幸いです。それで国にも認められ、交付金で財政支援もあると言っているんでしょうかね、その辺はちょっと私も分かりませんが、その辺どのようにお考えなのか、市長の答弁を伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） お答えします。

今、議員の質問を聞いていたら、それこそハッピーになるような質問だったような気がして、非常によかったと思います。未来を感じる質問だったと思います。本当に今はデジタル田園都市構想というのは、これから進んでいくと思います。

各種の補助金、これもついてきます。これは、どういう部分についていくかという、つまりデジタル田園都市構想というのは何ぞやということなんです。要するに、未来の自分たちの町、これの各部分、医療から、今お話あったとおり医療から農業から生産から何から全てのことが、そのデジタル田園都市構想の中で将来こういうふうになる。こういうふうにしていきたい。これがその地域地域の構想になります。ですから、スマート農業という言葉はもう耳慣れていると思うんですけども、あらゆることがそういうことになります。

ですから、つまりどういうことかという、今という現実があります。この今という現実を、さあどうしようかってつくっていくのがこれまでの将来の都市計画、もしくは都市の構想だったんですけど、今度は今という現実がある上に構想をしっかりビジョンを持つ、つまりイ

メージを持つ、これには医療から何から全部関係してくるので、全てですよってことなんですよ。ね。

ですから、考えていくこともデジタル的にマルチレイヤーで、マルチレイヤーというのは幾層にも重なっていくような形で、この部分はいつ頃こうなって、こうなって、こうなってってそういうふうな細かいことです。そこに対してつくっていく過程で、様々な補助金というのは用意されてきます。あらゆるジャンルにあると思っていきたいと思います。つまり、そこに何が必要かっていうと、自分たちのビジョンとイメージですね。こういうふうにしていくんだと。国では、D i g i 田甲子園という、よく何とか甲子園ってつくんですけど、それと同じように自分たちとところをどういうふうにしていくんだというような構想を集めて、コンペティションをするっていう企画もあります。

これは、例えば議員さんたちと市役所の若い人たちがそれをつくっていくとか、いろんな形でチャレンジできるんですね。これらのことを総称して、次のデジタル田園都市構想に向かっていくというようなところですよ。

現在、遠野市では先月の2日に遠野市デジタル、これトランスフォーメーションって読むんですね。推進本部を設置いたしました。そして、デジタルトランスフォーメーション推進アクションプランを作成することとしております。署内でワーキンググループをつくりました。これから、いろんな形で皆さんともお話をしたり、クロストークをしたりしていくと思います。一緒につくっていききたいなと。

このデジタルトランスフォーメーション、違えますね。これデジタルトランスフォーメーションってのが、すごくいいにくいですよ。それで私最近デラックスって読んでいます。簡単に。これをどういうことかという、地方創生の推進において、地方創生推進交付金、地方創生拠点整備交付金を、このデジタル田園都市国家構想推進交付金に統合して進めていくというものです。「まち・ひと・しごと創生総合戦

略」ってものがございました。これが改定されて「デジタル田園都市国家構想総合戦略」っていうものを策定していくというような流れになります。

これは、ものを例えばCTスキャンみたいにはっと輪切りにして行って、その分野分野のものをどういうふうにつくっていくかというのをやって、こっちから考えて行って、その実現できる。それと未来からちょっと下がってきて想像して、じゃあ今はここまでにしようかっていうのが、それぞれのところで違っていって、本当にまさにマルチレイヤーで考えていかなければならないということになります。

これが、これから例えば、さっき行政の手續の簡略化というのが小林議員から質問あったんですけども、まさにこういうものっていうのは、例えばAPIゲートウェイとかそういうもので、一旦そこにインプットされると、それが回る。それで解決してしまう。国はちょっと思い切った絵を描いているなと思うところは、役所に行かなくていいって書いてあるんですよ。そういう時代が来ますよと。例えば、病院に行かなくていい医療とか、極端なことをいえば、極端でもないんですね。国が書いているから。そういうふうな時代になりますよというところに、私たちはどういうふうにして進んでいくかというところを段階的にやっていかなければいけないというふうに考えています。

つまり、適用ですね。よくレジリアンスという言葉があります。聞かれていると思うんですけども、その力を強くして行って、いろんな状況に適用していけるようにしなければいけないというようなことですね。例えば、農業分野に関しても組合をつくるとか、合併企業をつくるかっていろんな形があるんですけど、その形を考えてもさらに柔軟な体制という形も出てくるよと、コンソーシアムっていうんですか、これもよく最近出てきているんですけども、そういう体制もどんどん世の中に増えてきますよと。これと現実をくっつけていかなきゃいけないというようなことだというふうに考えてい

ます。

いずれにしても今始まった状況で、段階的にみんなで理解し合いながら、私も実はこんなこと言っていたってあまり訳分かんない部分もあるんです。ですから、勉強しながら進んでいきたいなと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） 今、答弁の中でまち・ひと・総合戦略から移行していくんだというふうなお話がありました。5月2日にDXと、デラックスって言ったんですか、そういう推進本部を設置したっというお話でしたが、ワーキンググループをつくりながら、これからそういう戦略を練っていくんだと思いますけども、これは部署横断的な編成で行うと思われんですけども、何人ぐらいで、今年度はきちんと終わることなんですか。ちょっとそこのお話を聞きたいです。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） これは今年度では終わりません。これからスタートしていくと。これは、恐らく終わりはないと思います。常にそこにチャレンジしていかなければいけないんですけども、その中途中途では、しっかり段階的な目標と段階的なまとめが必要だと思っています。その都度、メンバーについても柔軟にしていかなければいけないし、これはまさに横断的っていうよりももう面的な感じで進めないといけないですね。全てが入ってくるということで。

○議長（浅沼幸雄君） 12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） 年間通して少しでもまとまっていれば、年度単位でもいいですから中間報告をしていただければ、なお結構だなというふうに思います。

それで、2点目の質問に入らせていただきますが、近年の異常気象のためか、災害リスクも増大しつつございます。この6月からは気象庁では線状降水帯の予測を始めるということで発

表がございました。線状降水帯は、発達した雨雲が列をなし同じ地域に長い時間強い雨を降らせる現象で、既に御存じかと思いますが、大雨被害が相次いでいることを受けて発生を知らせる取組を始めたようでございます。

このように災害によるリスクを低減させるため、大量の情報を処理するデータセンターを地方で整備すると発表が同時にありました。遠野市はかつての東日本大震災のこれまでの訓練と準備から即座に後方支援の役割を果たしてきたことも、既に皆さん御承知のとおりでございます。

官公署はもちろんでありますけども、民間も含めながら多くの機関、団体、組織が遠野に拠点を置き、遠野市から沿岸部をバックアップするということことができました。また、遠野市民も震災直後から炊き出し、物資の提供に尽力し、遠野市全体で遠野の後方支援の役割を共有することができたところでございます。

この実績を今回の構想にアピールすることができれば、地方の警備基地としても有望視されるのではないのでしょうかと私は思うところですが、市長はこのことについてどのようにお考えなのか、お聞きいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） お話が2つあったかなと思います。データセンターが一つ、それと防災、災害についてのアピールということでしょうか。データセンターについては、国が10か所、5年で拠点を整備すると新聞にも出ましたけれども、なぜか遠野市の名前はなかったかなというふうに思っています。なぜ、なかったかなというのは、私もちょっと不思議であります。

数年前から国は準備していたようでございますけれども、この辺のところも含めてデータセンターについては、私の当初の方針の中でもありましたので、政策に。これについてしっかり営業あるのみと。資料を作って営業していかなければいけないと思います。

その中の強みというのは、花崗岩の硬い岩盤

の上にあるということですね。地震・災害に強い、それと火山もない。大きな土砂崩れをするような地形も少ないと。こういうこともあるので、非常にいいと思います。この辺を、どういうふうな条件があればクリアできていくのかというところを模索しながら、営業に入りたいと思います。

現在、あの新聞記事が発表されて以来、各市町村聞いてみました。私。そしたら、既にアプローチのある市町村もありますね。それは、国のデータセンター以外の民間のデータセンター等が、もう動き出しているということです。ですから、遠野市もスピードを上げてアプローチしたいと思います。

それと、その防災に関していえば、この東北の横断自動車道、これができましたので、本線と沿岸の三陸道が非常に近くなったということで、さらに遠野市の役割というのは大きくなると思います。防災に限らず、様々な拠点になれるのではないかとこのように思います。その辺の強みを生かしながら、営業にあたりたいと思っています。

○議長（浅沼幸雄君） 本日の会議時間は議事の都合により、あらかじめこれを延長いたします。

12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） 国が既に10カ所指定があるようで、私もちょっとそれは情報が不足しておりましたが、市長の答弁の中では営業して、これからもアプローチしていくんだというようなお話でございましたので、その際は、議員団を引き連れて営業してもいいのではないかなというふうにも思うところでございます。頑張ってくださいなというふうに思います。

それでは、項目3点目といたしまして、デジタル人材に現在、能力の高い人材が全国で100万人程度が想定されているということで、今後、国としては、職業訓練の充実などで新たに230万人を育成しようとしているというふうに報道がなさっております。その職業訓練の場として

も遠野市は積極的に手を挙げていくべきではないのかなというふうに思います。自然豊かなこの環境と知名度の高いことを生かしながら、デジタル学園都市構想を打ち出してアピールすべきではないのかなというふうに考えるところでございます。

少子化対策、若者にとって魅力的な就業機会が地方に不足していることが、地方から東京に、東京圏に流出を招いているとも言われております。実際、総務省が全国の地方公共団体を対象に実施したアンケートでも約9割の団体が、良質な雇用機会の不足を人口流出の原因と考えていると言われております。市長の決断とアピールが国に届き、デジタル学園都市に結びつくことを願っているところでございます。市長の答弁をお願いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） これをぜひ進めなさいという、強い後押しというふうに受け取りました。現在のところ、遠野市のデジタル人材の育成とか、様々な教育部分について申し上げますと、特にデジタル人材の育成については、遠野市ということだけでなく遅れています。もう十数年前から、例えばアジア、ASEANの国もAIに関して、要するにコンピューター的なデジタルに関してはかなり進んでいます。

例えばインドなんかは全て、タクシー呼ぶのも支払いもどんな人も携帯電話です。例えば、ASEANのネパールであるとか、タイとか、そういうところでもファブリケーションっていう、あるんですけど、日本では鎌倉が一番最初に始まったんですけども、ファブラボっていうのがあります。ファブラボというのはその中で様々な機械に触ることができると。

例えば3Dプリンターとか、レーザープリンターというのはもう十何年前から子どもたちがもうそこで触っています。その空間をどんどんつくっているんですね。東京も、鳥取、九州も相当あります。そういうところがたくさんあって、その中で自由に子どもから高校生、大人ま

で触れる環境があるところはもう今かなり多いです。残念ながら、今遠野にないです。そういう部分を何とか入れたいと私思っています。それで、企業も大学にも様々なアプローチをしています。子どもからも触って行ってプログラミング進めていかないと、全然追いつかない。こういう状況です。

その中で、様々な遠野企業さんの仕事を、画像を通して見えていくようにしながら、遠野市内の企業さんのハイテクな仕事を理解して、こういう仕事をしたいなというふうに思うようにしていきたいなと。そのためには、どういう勉強をしなければいけないかということも、また分かると大学選んだり、様々な学校を選んで、この仕事ができるから遠野に帰ってきてやるんだみたいなこともできます。

今回のデジタル田園都市構想の中には、海外で活躍できる。つまり、企業も海外をシェアに入れなさいよということなんですね。ですから、私は遠野の企業も、特にASEANなどは窓をつくって遠野企業が、遠野と世界で仕事できるようにしていくと。まさにこれもデジタル田園都市構想の一つにあります。これらを少しずつ進めたいと。

ただ、今の巳喜男議員に言っていて非常によかったんですけども、私はその子どものそういう環境を急ぎたいと実は思っています。ですから、勇気を持って進んでいきたいというふうに思います。遠野をしっかりベースをつくれる環境をまずつくりたいと。まず、今のところ最先端には行けないです。もう、数年も前からいろんなところで始まっているので追いつきたいというふうに考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） 市長のほうから励ましというんでしょうか、未来に向かって勇気ある答弁がございました。市長は、多分私の頭の中では専門学校とか、そういう誘致もなかなかあったような感じで私は受けております。こういうデジタルの専門学校というんでしょうか、

そういう形での誘致もかなり人口流出、ましては若い方々の流出にもちょっと変化が持てるのではないのかなというふうに思っております。頑張っていたきたいなというふうに思います。

この、市長に対する最後の質問でございますが、このデジタル田園都市国家構想では、デジタル推進委員も全国で2万人以上の委員を確保する計画もあるということで、全国に配置する予定ということでございますが、簡単に割り算すると、市町村全国1,718市町村がございます。平均すると、1市町村に11人が、これは単なる割り算の世界ですが、配置ということになるんですが、これも既に市長のほうにはどこにどのくらいの廃置ということが、決まっているかもしれないかもしれませんが、その辺も含めながら、遠野市にも多くのデジタル推進委員を配置できるような体制ができないものかなというふうに思いますが、市長、どのようにお考えなのか、伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 本当に必要だと思います。より多くの方がそういうような活動ができるようにならなければ追いつかないなというふうに思います。現在、経済産業省、あと大手通信会社、それと経済産業省の関連のアドバイザーと様々、その辺の交流を進めています。今度、ちょっと私今、日にちは忘れちゃけれども、経産省のほうから派遣をしていただいて、それらの講習を担当課含めてしながら進めていくということにしております。

いずれにしても、市内でデジタル化を進めるということ、それと推進委員を配置していくということ、これ市民の方々により多く理解をいただいて、それにチャレンジするだ。例えば、面倒くさいから分からないというふうになるんですけど、覚えてしまえば簡単なので、できるだけ簡単に教えるような体制をとって、積極的にそれに向かっていただくという意識づけが必要ですので、勇気を持ってお互いに前向きにいかなければいけないと思っています。できるだけ、遠野にはたくさんの推進委員がいなくて

なかなか難しいなというふうに思っています。

○議長（浅沼幸雄君） 12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） DX計画につきましていろいろ推進に関しまして市長に質問をさせていただきました。市長から前向きな答弁があったものと私は思っております。ますます推進をしていただいて、この田園都市構想も含めながら、邁進していただきたいなというふうに思うところでございます。

それでは、次の質問に入らせていただきます。

教育長に一般質問を進めさせていただきます。

この4月から新たに教育長就任されたわけでございますけれども、市長の例を申しますと、市長就任にあたっては基本方針の演述が申されました。教育長にあたっては同じく基本方針の演述があってもしかるべきではなかったのかなというふうに、私は考えるところでございます。そこで、新教育長に遠野市の学校教育の充実について、どのような方針で取り組んでいこうとしているのかを、5項目について質問をさせていただきます。

項目1点目に関しましては、遠野市学校教育指導指針に係る学校教育構想の中で、遠野市学校教育目標が示されております。どのように捉えているものなんでしょうか。そして、前教育長との目標を継承していくものなのかをお伺いしてまいります。

○議長（浅沼幸雄君） 佐々木教育長。

〔教育長佐々木一人君登壇〕

○教育長（佐々木一人君） それでは、質問にお答えをいたします。

本年度につきましては、遠野市教育行政推進の基本方針を令和4年3月の市議会定例会においてお示しし、この基本方針により教育活動を計画実施していることから、本基本方針の趣旨、方向性を引き継ぎながら教育行政を進めてまいりたいと考えております。

グローバル化の進展、超スマート化社会の到来といった社会の変革に伴い、学校教育においては児童生徒一人ひとりが、自分のよさや可能

性を認識するとともに、自分以外の周りの人を価値ある存在として尊重し、様々な人々と共同しながら、様々な社会的変化を乗り越えて、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の担い手となることができるよう、確かな資質・能力を育成することが求められております。

学校及び社会での教育はもちろんのこと、地域の方々をはじめ、多くの人との関わりを通して、遠野市の学校教育目標である知・徳・体のバランスのとれた人間育成、確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体をバランスよく育んでいくことが、これからの時代を生き抜く子どもたちに必要不可欠であり、教育の果たす役割は極めて大きいものと捉えております。

○議長（浅沼幸雄君） 12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） 引き継いで、そういう教育目標を継承していきたいんだというふうに、ただいま答弁がございました。学習指導要領の理念といたしまして、知育・徳育・体育、知・徳・体ですが、先ほど、今答弁にもございましたけども、このことをいろいろと述べられましたけども、教育の場で前教育長の理念を引き継ぎながら、要領を引き継ぎながらやろうということのようでございます。

この、その次に質問をさせていただきますけども、教育内容の充実につきまして5つの重点目標を掲げて、遠野市ではおるわけでございますけども、どのようにこれは進めようとしているのかを、次に伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 佐々木教育長。

〔教育長佐々木一人君登壇〕

○教育長（佐々木一人君） それでは、教育内容の充実の5つの重点についてお答えをいたします。

教育行政推進の基本方針でお示しをしており、教育内容の充実について学校経営の資質向上、確かな学力の育成、豊かな人間性の育成、健やかな体の育成、特別支援教育の推進の5つを重点として取り組んでおります。

1つ目の学校経営の資質向上について、令和

4年度は市内全ての小中学校において、学校運営協議会制度、いわゆるコミュニティ・スクールがスタートする年度であります。学校運営への保護者、地域の積極的な参加を促し、社会に開かれた教育課程を推進してまいりたいと思っております。

2つ目の確かな学力の育成については、GIGAスクール構想により導入された学習用端末などの効果的な活用により、協働的な学びを推進するとともに、諸調査の分析結果を活用しより適切な個別指導を進め、個別最適な学びや家庭学習の充実に努めてまいりたいと考えております。

3つ目の豊かな人間性の育成については、地域とより連携した学習活動の充実を図るとともに、郷土理解や郷土愛を育むふるさと教育を柱としたキャリア教育の充実を図り、未来を創造していく人材の育成に努めてまいります。

4つ目の健やかな体の育成については、学校及び家庭と連携した新型コロナウイルス感染症対策の徹底を継続するとともに、日常的に運動に親しむ習慣や望ましい生活習慣の確立を目指して、児童生徒の健康づくりに努めてまいります。

最期の5つ目の特別支援教育の推進については、個々の教育的ニーズに応じた支援を行うため、特別支援教育支援員を適切に配置するとともに、特別な支援が必要な児童生徒の進学等に向け関係部署との連携のもと、継続した支援や適切な教育環境の確保に努めてまいりたいと思っております。

○議長（浅沼幸雄君） 12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） ただいま、5つの重点目標をそれぞれ伺ってまいりました。本当ありがとうございます。

その中で学力の育成、特にGIGAスクール構想の中で個人の裁量を引き出していくんだというようなお話がございました。まさにこれは、私もそれが最適だというふうに思っているわけでございますので、1人1台のタブレット等が

配置になっているわけですので、最大限に生かしていただきたいというふうに思っているわけでございます。

それでは、項目4点目でございますけども、中学校の部活に関しまして質問を進めます。

部活の活動方針について、教職員、部活指導員、保護者、外部指導員が共通理解を図る機会を設定、部活動を補完する活動、父母の会、スポーツ少年団等が行なわれる場合は、活動状況の把握及び主催者との連携と記されております。

近年、文部科学省では、生徒にとって望ましい部活動の環境を構築する観点から、部活動ガイドラインを策定し、部活動の適正化を推進しているところでございます。他方、学校の働き方改革は喫緊の課題であり、中央教育審議会の答申や給特法の改正の国会審議において、部活動を学校単位から地域単位と取組を変更するというようなことが指摘されております。

これらの指摘も踏まえつつ、今回その第一歩として学校の働き方改革も考慮したさらなる部活動改革の推進を目指し、部活動ガイドラインが示されました。学校と地域が協働・融合した部活動の具体的な実現方策とスケジュールを明示するものでございます。部活動を巡る様々な関係者がそれぞれの立場で協力しながら、段階を踏んで着実に実施することにより、部活動における教員の負担軽減に加え、部活動の指導等に意欲を有する地域人材の協力を得て、生徒にとって望ましい部活動の実現を図るものであると言われております。

休日の運動部の部活動を学校でなく、地域でやっという動きだと思えます。スポーツ庁の有識者の会議があり、そこで提言がございました。学校の先生の長時間の労働は前から問題視されておりました。このことにより、改善につながるのか、この辺、このこういう今までの動きの中で改善につながるものかということもございます。小中学校の教員の実質的な時間外労働の平均が、1カ月当たり80時間を超えるという調査もあるというふうに伺っております。

部活動の休日指導を地域に移行した場合のメリットといたしましては、教員の長時間労働の解消につながる。学校での経験できないスポーツが経験できる。地域でのスポーツ環境整備の充実。反面、デメリットといたしましては受け皿となる団体への会費、保護者への負担が出るのではないのかと、指導者の確保が難しいのではないのかと、地域により足りない想定されるスポーツ施設の確保が難しいのではないのかと、令和5年度から3年間かけて休日の指導を学外組織に移行させる提案があると聞いております。民間のスポーツクラブ、大学等で受け皿として考えられているというふうに伺っております。そういう受け皿、コーチ料など保護者負担が増えることも心配でございますが、教育長はその点をいかに考えているのかをお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 佐々木教育長。

〔教育長佐々木一人君登壇〕

○教育長（佐々木一人君） それでは、中学校の部活動についてお答えをいたします。

学校教育の一環として位置づけられている部活動は、スポーツや文化等に親しむ観点や、教育的側面において異年齢集団との交流の中で、好ましい人間関係の構築や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養にするなど、教育的意義が大きいものと認識しております。

一方で、部活動は必ずしも教員が担う必要のない業務として位置づけられ、教員の勤務を要しない日の活動を含めて教員の献身的な勤務によって支えられており、そのことが多忙化の要因であることや、指導経験のない教員には大きな負担になっているとの御指摘もございます。

スポーツ庁の有識者会議「運動部活動の地域移行に関する検討委員会」は、公立中学校の部活動の目指す姿として、生徒にとって望ましい部活動環境の構築と学校の働き方を考慮した提言をまとめ、6月6日に公表いたしました。

この提言では、少子化や教師の業務負担等を背景に、学校の部活動では支えきれなくなっている公立中学校の運動部活動について、学校の

管理下にあった休日の部活動に関する業務を、学校単位から地域単位への活動へ変えていくことが、少子化の中でもスポーツに継続して親しむことができる機会を確保することを目指しているとされております。

部活動に代わり、生徒が自主的にスポーツ文化活動に取り組み、体力や技能の向上を目指す活動機会を保障する観点から、学校の活動して行われる部活動と地域の活動として行われる部活動との連携を図りながら、地域部活動の実施のため必要な取組を行っていくことが求められております。

本市におきましては、これまでも適正な部活動の実現に向けた部活動改革として補助事業を活用した部活動指導員などの外部指導者の活用や、活動時間、休養日の基準の設定、短時間での効果的な指導の工夫等に取り組んでまいりました。

今後の部活動改革につきましては、スポーツ庁の提言を踏まえ、部活動の教育的意義を踏まえつつ、生徒にとって望ましい部活動環境の構築とさらなる学校の働き方改革を実現するため、休日の部活動の段階的な地域意向を検討してまいりたいと考えております。

○議長（浅沼幸雄君） 12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） ありがとうございます。答弁の中では学校の部活動と地域の部活動を連携させながら、今後進めていきたいんだというような答弁でございました。

部活動、先ほど述べられましたとおり、学校の部活動を補完する活動といたしまして、スポーツ少年団の活動がございます。代表的には野球チームで遠野西ベースボールクラブが活躍しているわけでございます。今年度も全日本少年軟式野球大会岩手県予選に第1代表として県大会に出場をしております。

このクラブ活動にあたっては、父母の会の活動も活発に行われているということでお聞きをしておりますが、このクラブへの遠野市教育委員会としては補助金のことをいって恐縮なんで

すが、どのような体制と支援で今後、今後っていうんでしょうか、こういうことを踏まえながら進もうとしているのかを伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 佐々木教育長。

〔教育長佐々木一人君登壇〕

○教育長（佐々木一人君） 遠野西中学校の活躍大変すばらしいなというふうに思っております。スポーツ少年団への支援に関しまして、スポーツ団体小学校、中学校、高等学校等への協議スポーツにおいて、全国大会に出場する個人並びに団体へ、遠野市次世代スポーツ選手全国大会出場補助金交付要綱に基づき、補助金を交付し支援しております。

○議長（浅沼幸雄君） 12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） 学校の部活動の支援と比べると、補助割合が少ないというふうにも伺っておりますが、その辺、やはりこれからの休日部活動の絡みを踏まえながら、平等といえど失礼なんです、同じような感覚で補助を出していただければ幸いですというふうに思っているわけでございます。

最期の5項目めに入らせていただきます。

教育環境の充実について、当初の計画どおり実施していくのかをお伺いしたいと思います。

最初に、学校施設については、遠野市学校施設長寿命化計画に基づきながら、当初の令和4年度計画により施設改修や点検に基づき、修繕をきちんと進めていくのかをお伺いたします。

○議長（浅沼幸雄君） 佐々木教育長。

〔教育長佐々木一人君登壇〕

○教育長（佐々木一人君） 令和3年度2月に、遠野市学校施設長寿命化計画策定後に、一部改修時期を見直した箇所がありますが、当面の間計画に基づいた改修を行うこととしております。昨年度からの繰り越し事業として、小友小学校及び達曽部小学校の屋内運動場長寿命化改修工事を現在も行っているほか、小友小学校校舎の長寿命化改修工事に向けた実施設計も並行して行っております。修繕等の実施については、毎年学校施設点検を実施しており、各校からの修

繕要望等を取りまとめ、現地確認を行った上で、対応方針を決定し、順次修繕を行なっております。また、学校施設点検によらない突発的な修繕についても、その都度対応をしております。

○議長（浅沼幸雄君） 12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） 遠野市学校施設長寿命化計画に基づいて、引き続き行われているということで、いくということで安心をいたしました。

最後に、質問に入らせていただきます。

経済的な理由で学びを止めないための環境の充実として学用品やクラブ活動費などの支給を行っているわけですが、継続するとともに、さらなる拡充も実施しながら、保護者の経済的負担の軽減が求められておるところでございます。奨学金制度の周知にも努め、経済的理由により大学等の修学を諦めるのではなく、有能な人材を確保することが、何よりも涵養であると。遠野市の将来を担うことを願いつつ、教育委員会が一体となり進んでいくという心構えが必要と考えております。

これに付け加えれば、生活保護家庭の子どもの進学の課題が、先頃テレビでも放映があったと記憶しております。子育てするなら遠野の精神の中で、教育の現場では特に重要なことと考えておるところでございます。子どもは遠野の将来を担う宝だと、私は思うところがございます。このような経済的な理由で、いかにして遠野の人材を育てていくのかを教育長に最後に聞いて終わります。

○議長（浅沼幸雄君） 佐々木教育長。

〔教育長佐々木一人君登壇〕

○教育長（佐々木一人君） 議員のおっしゃるとおりでございます。

遠野市教育行政推進の基本方針において、経済的な理由で学びを止めないための環境の充実として、経済的に就学が困難と認められる児童生徒の保護者に対して支援する就学援助費制度、経済的な理由により修学が困難である優秀な学生への学資の貸与をする奨学金制度の2つの制

度により支援していくことを、基本方針として述べております。

就学援助費制度の主な援助としまして、学用品やクラブ活動費等の支給となりますが、令和3年度からは学習用端末の持ち帰り学習に対応できるよう、オンライン学習に係る費用も就学援助の支給対象として、保護者の経済的な負担軽減に努めてまいりました。

また、奨学金制度につきましては、市内の中学校、高校のほか近隣の高校に対しても周知しておりますし、毎年2月に行っていた通常募集のほか、予算の範囲以内にはなりますが、令和2年度から年間を通しての追加申請も可能としており、昨年度は1名の追加申請があったところでございます。議員のおっしゃるとおり子どもは遠野の未来を担う宝でございます。子どもたちが経済的な理由により、教育の機会が奪われることのないよう、全ての子どもが安心して教育を受けることができるように支援してまいります。

○議長（浅沼幸雄君） 12番菊池巳喜男君。

〔12番菊池巳喜男君登壇〕

○12番（菊池巳喜男君） ありがとうございます。新教育長におかれましては、子どもは遠野の将来を担う宝ということを中心に秘めながら教育に邁進していただきたいというふうに思います。ありがとうございます。

ちょっと最後に、この前、植樹祭の際に緑の架け橋そばっち通信ということで、来年度は全国植樹祭が陸前高田で行われるというふうに聞いて、チラシが回りました。その中で、最後に書いておりますが、岩手県は天然のアカマツが豊富だと。南部アカマツは県の木に指定されて、太くて真っすぐに育ち、優しい色合いと柔らかな木目が特徴ですということで書かれております。

来年は陸前高田にアカマツも植栽されると思いますけども、アカマツといえば秋の味覚のマツタケがアカマツ林に生えるということだというふうに思っておりますけども、ただいま市内の野生のキノコ類は、残念ながら放射能で汚染

されているわけでございますけども、今年は何とか行政の力も借りながら市内の産直に秋の風味を並べていただきたいことを願いつつ、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

散 会

○議長（浅沼幸雄君） お諮りいたします。本日の会議はここまでとし、散会いたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（浅沼幸雄君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて散会いたします。御苦労さまでした。

午後 4 時 22 分 散会

